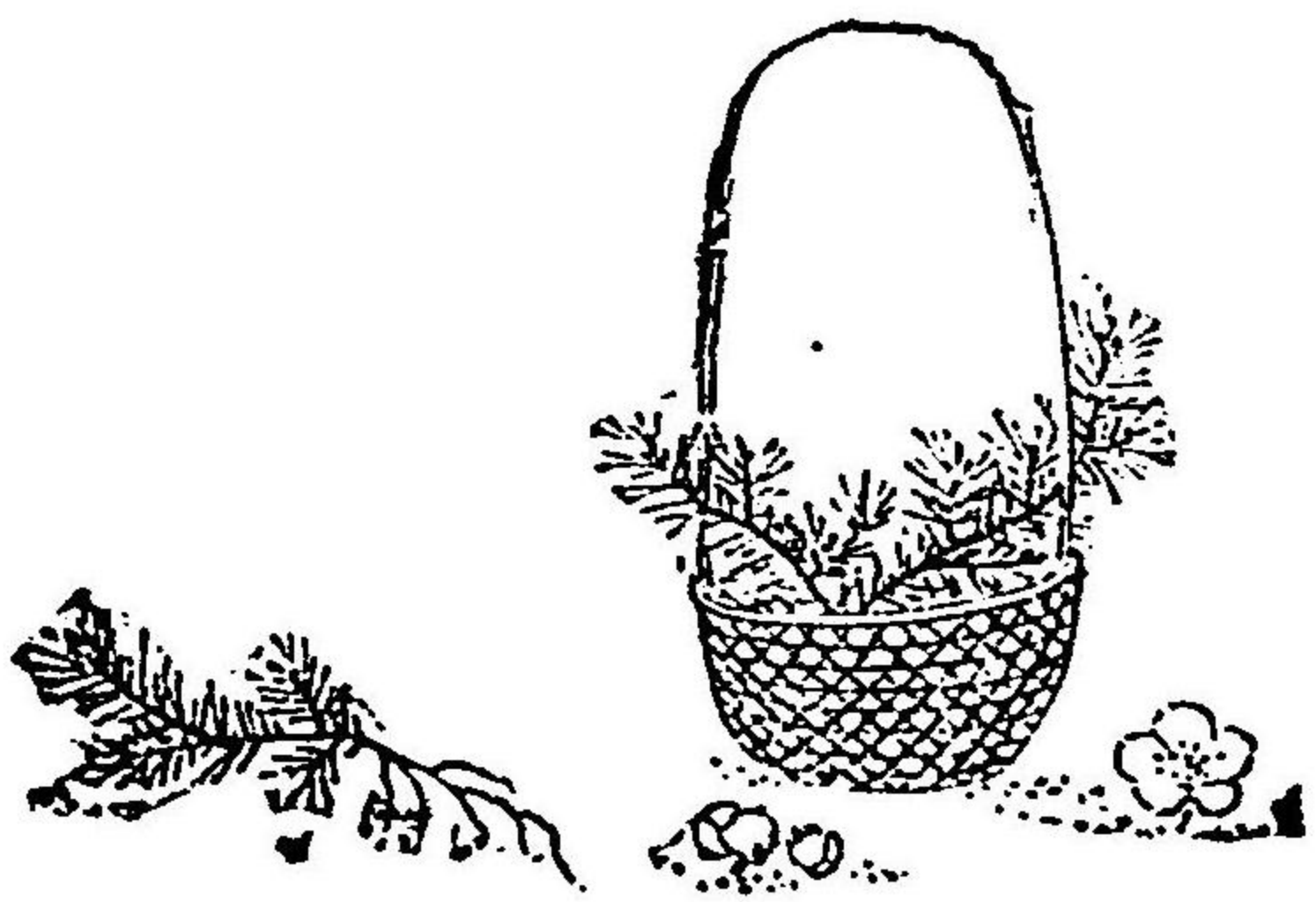


を説いて客に示す、是を以て後日客に買カブリの悔更にあることなく、皆納得して君の店の品を求むるに至る、而かも君は極めて其利を薄ふするを以て結局其品物は非常の安價として、之を使用するものも満足を買ふに至るなり、是れ君の店が確實の名を世に賣りたる所以にして、又た實に一般商賈の秘訣たるなり、若し世間の商人悉く此秘訣を用ゆるに至らば、殊更に品物に正札を附する等の煩もなく、而して商業は益々隆盛を極むるに至るべきなり。

第一編 市原兼吉君

百五十六



和洋糸組物 洋傘房商 川瀬庄兵衛君

(東京市芝區露月町三十六番地)

三等賞牌受領

君は弘化四年四月八日京橋舊まさ木町に生る父は川瀬城國と云ふ君は其次男なり十歳の時初めて組糸組物業に従事し、五十七歳の今日に至るまで、前後四十七年間、一意斯業に従事して敢て變るなく、其天稟の技術は巧愈々巧を加へ、精益求精を増して、全國中殆んど他に比類なきを見る、其斯界の泰斗として仰がるゝ宜なりと云ふべし、君の始めて斯業に就けるは當時市内に有名なりし布袋屋に奉公したるにして、爾來十二年間同店に在つて練磨研鑽し、能く他に遜色なきに至り、乃ち明治元年四月を以て主家を辭し、京橋區大鋸町に店を構へて、茲に始めて獨立の營業を營むに至りたり、君是れよりして愈々勵精、其巧妙の技漸く世の知る所となる、明治八九年の頃、天皇陛下御召服御改良の事あり、即ち君は其下受御用を承りて、滿三ヶ年の間組物類を製出し之を上納したり、君之を無上の光榮とし、愈々此恩恵に辜負せざらんことを期し、勵精益求精を力めたり、當時芝露月町壽屋小松崎茂助氏始めて金銀モールを製出し、君亦た招かれて、其製作技術方に従事し、此時を以て大鋸町よ

第一編 川瀬庄兵衛君

百五十七

勳業功績録

り今の處に移り、専心銳意斯業に研鑽せり、斯の如くして君の伎倆は愈々他に卓絶するに至り、其糸物の精巧緻密なる、金銀モールの細工は云ふ迄もなく、如何なる微細の細工に至るまでも、之を製作し得ざるものなしと云ふ、君を知れるの同業者皆曰く、日本製モールの發明者は小松崎氏にして、氏の功素より多とすべきものあるも、其製作の精巧美妙なるに至つては故伊林次左衛門氏と及び君とを推さざるべからず、其功亦た決して尠しとなさざるなりと、君又た夙に日本製洋傘房を製造販賣なしつゝあり、其製品最も巧妙にして且つ優美に、能く内外人の嗜好に適して好評甚だ噴々たり、而して實に此業に就ては君を以て我國に於ける元祖と稱するを得べく、今も其技君の右に出づるもの曾てあらざるなり、左れば同房は最も世の歡迎さる所たるのみならず、第三回内國勸業博覽會に於ては、其出品三個に對して褒狀及び進歩有功の賞を受け、第四回同博覽會に於ても有功賞牌を得今回の第五回同博覽會に於て三等賞を得たるも、亦た實に此洋傘房に對してなり、其製造は甚だ熾んにして、君の自宅のみにて二十臺以上の機械を据付け、常に熟練なる職工十七八名を使役し、一ヶ年の販賣高は卸小賣を併せ、一萬五千圓を下らずと云ふ君子子女九人ありて、極めて圓滿なる家庭を作りつゝあり、

西洋建築諸鐵物
諸機械類製造業

中北庄吉君

(東京市京橋區尾張町新地五番地)

二等賞牌受領

勳業功績録

君本年五十有七歳、性剛直にして毫も自信を枉げず、且つ事に従ふ最も熱心にして、其特技たる洋式建築諸鐵物及び諸機械類、並に室内裝飾用諸鐵物一式の如き、君の改良創製になりたるもの甚だ尠からず、同業者中實に君を以て最古最良のものとして之を賞擗せざるなし、君は明治五年始めて今の處に開店したるものにして、爾後支店を同區銀座三丁目開設し、工場を同區新湊町四丁目設け、盛んに其業務を營みつゝあり、其賣高本支店を合して、一年平均二十萬圓を下らず、職工は常に五十餘名を使役して、實に斯業第一の隆盛を極めつゝあるなり、而して君の販賣品中特に擧ぐべきは炭焚暖爐にして、這は素と歐洲理學士の發明に成りたるものなるを、君更に苦慮考案して、大に改良を加へたるものにして、此器の特色とする所は、煙筒を設けざるが故に何れの場所に持運ぶも自在にして、且つ焚炭より發する炭酸瓦斯は、上部に設けある水鍋中に吸收せらるゝを以て、終日終夜連用するとも決して頭痛眩惑等の憂なく、又た客の注文に依りては外部に眞鍮網を取付くるを以て、小

兒等過つて手を觸るゝも決して火傷等の危険なし、其構造は極めて高尙優美なるを以て、公族貴紳の居室醫師の診察室等其他總ての處に用ゐて衛生上完全なるは勿論室内裝飾品として缺くべからざるものたり、又た其製造品の一たる防火通風器の如きは最も火災に必要なものにして、同器は全部鑄鐵を以て成り、パイプ形の丸穴を穿ち、足先を行違ひに組合せ、中央に鐵網を挿入したる、新規發明の構造にして、如何なる火中に目塗をなさずして捨て置くも、決して火災侵入の虞あるなし、是を以て農商務省より特許の榮を受けたるが、目下堅牢の建築と稱せらるゝ日本銀行三菱會社、横濱正金銀行其他各官衙等の如き、何れも此器を使用して、以て其建築物及財寶の安全を期せざるなし、若夫れ各戸之を用ゆるに至らば、其幸福を増進すると決して尠からざるものあらんなり、君は曾て第一回以來の内國勸業博覽會に、毎回缺かさず其自製の暖爐を出陳して、其都度賞牌を得ざるなかりしを以て、愈々勵精其改良を圖り、今回の第五回博覽會には層一層完全なるものを出陳したり、蓋し君の意從來の製品すら尙且其都度賞を得たり、今回のもの更に夫以上の賞を得べきや必せりと、而して人亦曾て之を信せざるものあらず、然るに意外にも審査の結果は此精神を罩めたる出品に對して何等の賞をも與ふるなく、反つて其支店より出品したる金庫にして、殆んど君の意中に置かざりしものに對して二等賞を得るに至りたり、是れ獨り君の意外とする處なるのみならず、其出品の性質を知るもの悉く以

て異となさざるなし、審査官果して如何の見る所ありたるかは之を知るに由なしと雖も、少くも其暖爐に對して何等の賞なかりしは當を失したるものと云はざるべからず、君の遺憾果して如何ぞや、君の夫人きた子賢にして且つ壯志あり、常に良人を輔けて能く内外の事に當る、今回の事の如き亦た能く良人を慰め且つ之を勵まし、大に將來の發奮興起を期しつゝありと云ふ、思ふに區々たる一行賞の如き、君に於て何かあらん、若し夫れ更に奮起努力、以て愈々精良のものを製出するに至らば、獨り君の聲譽のみならず、又た我國の幸福たり、君夫れ力めよや、君の店の支配人を瀬沼定次郎氏と云ふ、最も忠實にして勤勉、常に能く君の意を受け、内外の事に當つて遺算あるなし、君の勵精にして且つ此賢夫人と良支配人のあるあり、將來層一層の發達期して俟つべきなり、

日本電氣株式會社

(東京市芝區三田四國町二番地)

一等賞牌受領

日本電氣株式會社は曾て米國ゼネラル、エレクトリック會社に在りて幾多の學識と經驗とを積みたる、前大阪電燈會社技師長工學士岩垂邦彦及び日電商會主前田武四郎の兩氏其他米國人にしてウエスターン、エレクトリック會社米歐本支店に關係を有する人々と合同して、明治三十年九月、甫めて之を設立したるものにして、歐米最新の機械に依り、精選の材料を以て各種の電話機、同交換機及び附屬品類其他電氣通信機械等を製作し、就中其デューブル、ソリッドバック各電話機、卓上、壁上、軍用等の諸電話機械器具に至つては、原料の精選にして、製作の巧緻なる、能く舶來品を凌駕して、夙に出藍の譽あり、近來は各種のコード等も全く同社工場に於て製作し、絹巻線の如き、また世間電工家の渴望措く能はざりし處の最細條銅線の如きに至りては、實に同社が非常の工夫を凝らし、且つ最も最新にして精巧なるダイヤモンド引伸調整機を應用し、充分の成功を奏したるものにして、其S.W.G.二十番より四十三番に至るものゝ如き、今や何の苦もなく日々多數の精良品を製作し得る

勤 業 功 績 錄

勤 業 功 績 錄

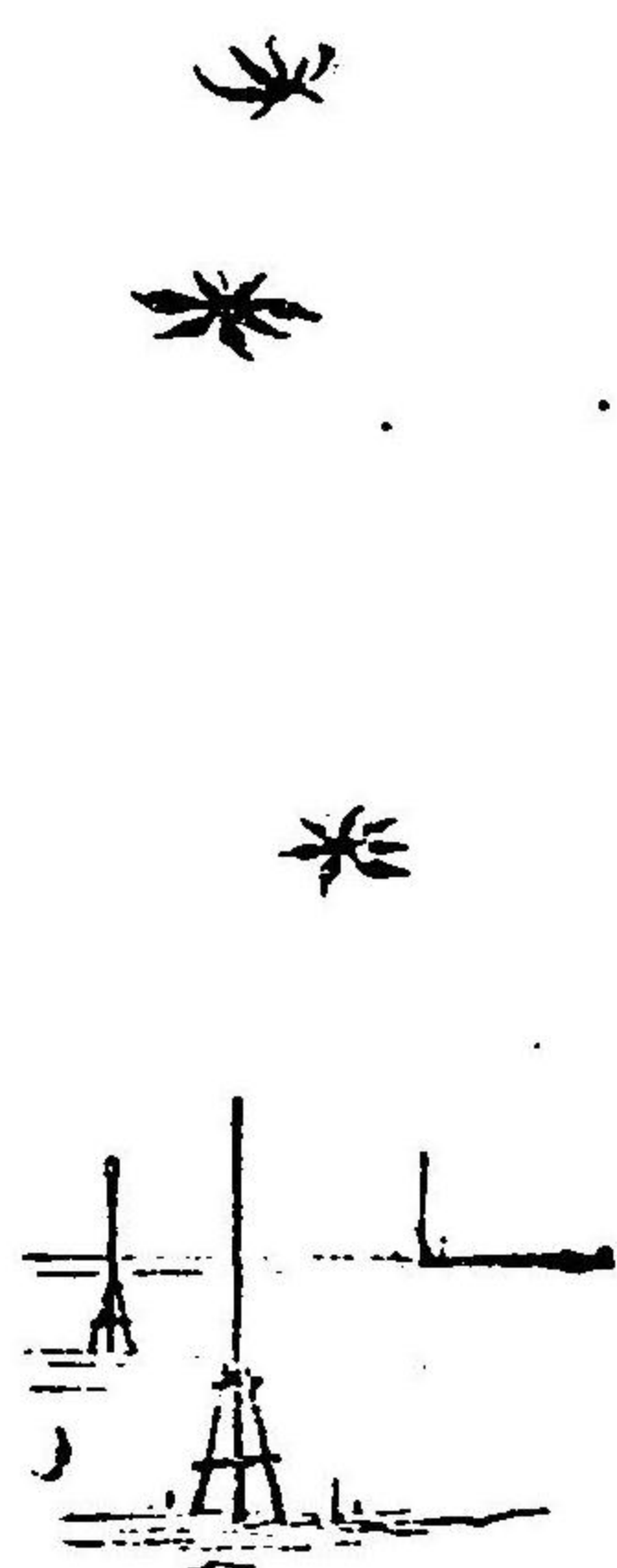
に至れり、同社は専ら米國風に則り、一意實用を主として更に虚聲虚聞を求めず、能く如上の精良品を製出して、専ら需要者の便利を圖りたれば、人氣靡然として之に向ひ、業務日を逐ふて盛大に赴きたり、初め同社の工場は舊三吉電機工場を買取りて之に整理を加へ開業したるものなるに、以上の如くにして業務日に頻繁を加へ、其工場忽ち狹隘を告ぐるに至りたれば、三十三年の暮、本社を距る丁餘なる、四國町芝園橋筋大通の地をトして、新たに事務所並に工場の建築に取掛り、昨年四月を以て製造部を此所に移轉し、營業部は依然舊所に置きたるも、尙多少の不便を免かれざりしを以て、昨冬全部の工事を竣成すると共に、本年早々營業部をも之に移して、愈々盛大に執業するに至り、而して之と同時に社員を歐米の工場に派し、或は最新の製造機械を注文し、或ひは敏腕の技師を聘し老熟の職工を雇ひ、且つ愈々材料を精選し價格を厳正にし、其信用と精材との他に比類なからんとを期し、又た能く如何なる大部の注文にも直ちに之に應じ得る丈の設備を施して、今や社務全く整頓するに至れり、思ふに我國今日の現狀は尙ほ電氣の利用を實施するもの僅々百餘に過ぎず、其事業尙振はざるものありと雖も、工業の發達は漸く蒸氣力より電氣力に移るの兆候を現はし、數年ならずして悉く電氣力に支配さるゝに至るは明かなる事實なりとす、且つは市街の交通機關の如きも、今や専ら其動力を電氣に取らんとするに至り、其他電信の如き、電話の如き、其需要は益々増加して、愈々電氣業

務の頻繁を加へんとするの時に當り、同社が如上の大設備をなして以て之に供ふるもの、能く機宜に適したるの處置と云ふべく、又た以て同社の將來益々好望の地位にあるを見るべきなり、尙ほ同社は其製作品の外、歐米有名の諸會社と特約を結び、各種機械及び製造用材料品等を直輸入販賣なし居れるが、同社の資本金は二十万圓にして悉皆拂込済となり、其重役は

専務取締役社長岩垂邦彦、取締役エフ、エツチ、レゲット、同イー、ダブルユー、クレメント、監査役前田武四郎、同藤井諸照

の諸氏なり、尙ほ萬々一にも此資本を以て不足を告ぐるに至る場合は、幾十萬の大資も直ちに之を醸出するの準備整ひ居り、其内部の組織の整頓せると、他會社中稀に見る所なりと云ふ、尙ほ同社目今使雇の技師は十二名、社員は十八名にして、職工は常に二百名を下らず、又た同社は斯業の發達を圖るの目的を以て日本電氣月報なる月刊雑誌を發行し、毎號斯業に有益なる記事を載するの外、同社の製造及販賣品目并に貯藏品最近の現在高等を和英兩文を以て報告し、一目需要者に了解を與ふる等、専ら文明的の設備を怠らず、同社が今回第五回内國勸業博覽會に出品したるもの、内、甲號卓上電話機は、畏くも、天皇陛下の御思召に適ひ、其一對御買上の恩命を蒙りたるが、此電話機は最も美術的に製作したるものにして、諸種の卓上形電話機中最高尙最優美のものたり、左れば貴顯紳士等の居室は勿論、高等官吏の卓

上、富人豪商の机上に置かれ、美麗と品位を保つゝの點に就て、最も世の稱賛を博しつゝある所のものなり、其博覽會に於て一等賞を得たるも、此電話機に對してなるが、斯く精選良好の有益品にして、僅かに一等賞に止まれるは、世人の竊かに異となす所なり、思ふに審査官に在つても、其材料の良好にして、他の製品に比し遙かに良好なるは認めたるならんも、其材料を海外に採ると多く、内國品を用ゆるとの尠きより、所謂内國勸業博覽會の趣旨よりして、其賞を此に止めたるものならんか、同社は其賞の厚薄を敢て意とするとなく、益々精品を製出して文明的設備に辜負せざるの方針なりと云ふ、其將來の有効有利期して俟つべきなり。



東京製綱株式会社

(東京市麻布區本村町百四十五番地)

名譽銀牌受領

本邦に於て蒸氣機械を用ゐ、完全なる製綱業を企畫したるもの同社を以て嚆矢となし、又歐米の式に法り近來工業界の重要品として認定せられたる鋼索製造業を開始したるは實に同社を以て東洋の鼻祖となすべし同社は澁澤榮一、益田孝、渡邊温、山田昌邦等の諸氏發起となり、麻綱製作の目的を以て明治二十年四月地を現在の處に卜して、東京製綱會社を設立し、英米兩國より各種の新式製綱機械を購入し、同時に製綱技師ウヰリアム、ブルーク氏を英國に聘し、技手及職工に斯業を練習せしめ、尋で横須賀造船所に設置せられたる製綱機械一式と共に、同所に於て養成せられたる製綱技手及職工をも併せて同社に引受け、此に麻綱製造の設備を整頓し次で綱索使用の漸次増進し來るべきを慮りて又此が製造業を開始する爲深川に分工場を設置せり、而して同社は初め海軍省の納品を目的として設立したるものなるも、其後會計法の規定に依り、同省の需要品も入札法に依り購賣することとなりたれば、同社は特に指名に掛るものゝ外は、専ら民間の販路に向つて供給し、一切入札に加は

録 績 功 業 勳

録 績 功 業 勳

らざるどしたり、是れ入札には從來盛んに不正の所爲行はるゝを以て、同社亦た其渦中に投じ、不正の利益を占めんよりは、長へに名譽を損せざるを欲したればなり、其心事の清廉なる極めて多とすべきものあり、然るに其後海軍省に於ても入札の弊を認め綱索は直ちに人命に關する貴重のものにして、且つ軍事上必要缺くべからざるの品なるを以て、昨年來各鎮守府艦船用の綱索は、總て同社製品に限り、隨意契約を以て購入するとなり、同社の至誠は此に貫通するを得たり、而して主として海軍省に於て使用せらるゝ揚旗線の如きは同社が先年佛國巴里萬國博覽會出品中より特に購入したる機械に依り製作するものにして、本邦未だ他に之を使用せるものあらず、其他の機械亦た總て新式精良のものをを用ゐ、現にテールヤーン乾燥機械の如き、米國最新式のものにして、從來テールの滲出を防ぐの法甚だ困難なりしを、同社は該機を据付け、蒸氣を送りて温氣と風氣とを加減し、種々の苦心研究を重ねたる結果、極めて好成绩を得て、今は全く其滲出の憂なきに至りたり、而して民間の販路も亦信用を博し、外國製品を市場より驅逐し、又た他社製品に比し精良の評を得、特に露國海軍士官は同社を來觀し、其精良なるを賞讃し、爾來同國東洋艦隊所用綱索は、悉く同社製品を需要するとなり、特にバラ打綱に至つては特別の技術を要し、北米合衆國の如きは、特種の専門業として之のみを製作するもの數ヶ所もある程なるに、同社は多年研鑽の結果、敢て之に遜色なき精品を製作

し、現にインターナショナル、マイル、コンパニーの如き北米の製綱を捨て、同社の製品をのみ使用し居れるの有様なりとす、其他外國輸出も亦た日を逐ふて増加を見るに至り綱索製造は創業日尙淺きに係はらず、成績頗る顯著にして需用日に増加せり、同社は本村町百四十四番地より百四十六番地に亘り、一萬三千百餘坪の社有地の内、第一工場煉瓦造五百四十六坪第二工場木造千二百三十七坪倉庫煉瓦造二百七十六坪、事務所(木造五十三坪)合して二千百十二坪の大建築物を有する外、分工場として神戸市兵庫入江通五丁目二番地に三百三十一坪、東京市深川區東大工町四十八番地に九百二十坪の大工場を有し、本社にはランカッシャー形汽罐一臺に二百馬力及三十馬力の原動機各一臺を据付けて、五十臺の製綱機械を運轉し、兵庫分工場はランカッシャー形汽罐、百馬力原動機各一臺、製綱機三十五臺を据へ、深川分工場はランカッシャー形汽罐一臺に、原動機は百馬力、六馬力、三馬力、一馬力等各一臺を用ゐて、八十二臺の製綱機械を運轉しつゝあり、而して其製品は本社に於てはマニラ綱、揚旗線、テール綱、白打綱の四種、深川分工場に於ては鐵索、鋼索及針金の三種を製し、兵庫分工場に於ては單にマニラ綱のみを製造しつゝあり、而して其製品は何れも精良にして堅牢、且使用極めて久しきの特長を有す、又同社が原料として使用せるものはマニラ麻(マニラ産上等の品にしてマニラ綱に用ゆ)野州麻(栃木縣上都賀郡の産にしてテール綱及白打綱に用ゆ)支那麻(清國漢口産にして下等

績 績 功 業 勳

テール綱に用ゆ)鋼棒(英國シユフヰールド産)亞鉛獨國ホーヘンローへ産麻糸(野州麻又はシユートヤーンを以て心綱に供す)等にして、其製造品の數量は年々増加を示しつゝあり、今前二ヶ年に於ける其販賣額及び價格等を表示すれば左の如し

本 社	(三十四年)	一七三、二七〇	二九〇、五九八	一〇一、二九〇
兵庫分工場	(三十四年)	一八五、六六〇	四二三、五三三	一一〇、〇七六
兵庫分工場	(三十五年)	二八〇、三三〇	二六八、八四三	
深川分工場	(三十四年)	一六一、二二三	二六四、八一三	
深川分工場	(三十五年)	二〇六、六二八	一四五、一七八	
			二二一、〇三二	
			五四、四八七	
			五二、二五七	

其販路は本社製品にありては東京、横濱、北陸、北海、東山道、及び内地各鎮守府、海外は浦鹽斯德、旅順、上海、比南、新嘉坡等、兵庫分工場のもは専ら關西地方にして、幾分の清國內地に輸出せらるゝものあり、深川分工場に於ける鋼索は各鎮守府船舶業者、諸鑛山、石油鑿井業者等なりとす、而して其前に述べたる海軍省の指名注文を初め、日本郵船、三菱造船、浦賀船渠及び石油界に有名なる日本、寶田、インターナショナル、マイル、コンパニーの諸會社、皆低價を以て競争する他社の製品を排して、特に同社の製品を使用しつゝあり、斯の如き有様なるを以て、初め外國より輸入し來りしもの、今は全く之を杜絶したるのみならず、反つて前表の如く日に月に多額の輸出を見、以て大に國益を増進し得たるもの、同社の功績として最も稱揚せざるべからざるなり、特に此に記すべきは鋼索の製造業にして、同業は

績 績 功 業 勳

勤 業 功 績 録

外國に在ても近來の事業に屬し、東洋には更に其製造所あらざるを同社は早くも今後其需要益々増加すべきを察し、率先して斯業を企畫し、累年利益を見る能はざりしも、能く之に堪へて熱心從事したるの結果、終に精良品を製出するを得て、漸く世間の信用を博し、海軍省の指名注文に應じ尙著名の諸鐵山船舶業者の需用を充たし大に工業界に貢献するを得たるの一事なりとす、以て同社が如何に斯業に忠實にして勤勉なるかを見るべきなり、而して此忠實勤勉は益々總ての製品を精良ならしむるを得たるものにして、今其製品の特色とする處を擧ぐれば(一)原料を精選し(二)纜糸に適合して耐力を試験し(三)テールは特に製造者を選びて特製せしめ(四)テールヤーンは特設の乾燥室に移し乾燥するが故に急需に應ずるを得(五)製網は海軍省公認の耐力を有つが故に使用上甚だ安全なる等其重なるものなりとす、斯く精巧にして有功なるを以て、其從來褒賞を得たることも尠からず、即ち明治二十年五月東京府工藝共進會に於て二等賞銀牌を、同二十三年七月第三回内國勸業博覽會に於て一等進歩賞を、同二十五年八月北海道物産協進會に於て協賛會より賞牌を、同二十八年七月第四回内國勸業博覽會に於て進歩一等賞を得たるが其後鋼索製造業を開始したるを以て今回第五回博覽會に於ては、其本社より出品の麻綱と、深川分工場より出品の鋼索とに對し、他同業者に卓越し斯業最大の重賞たる名譽銀牌を受くるに至りたるは、亦た光榮なりと云ふべきなり、而して其製品の精緻を證すべきは

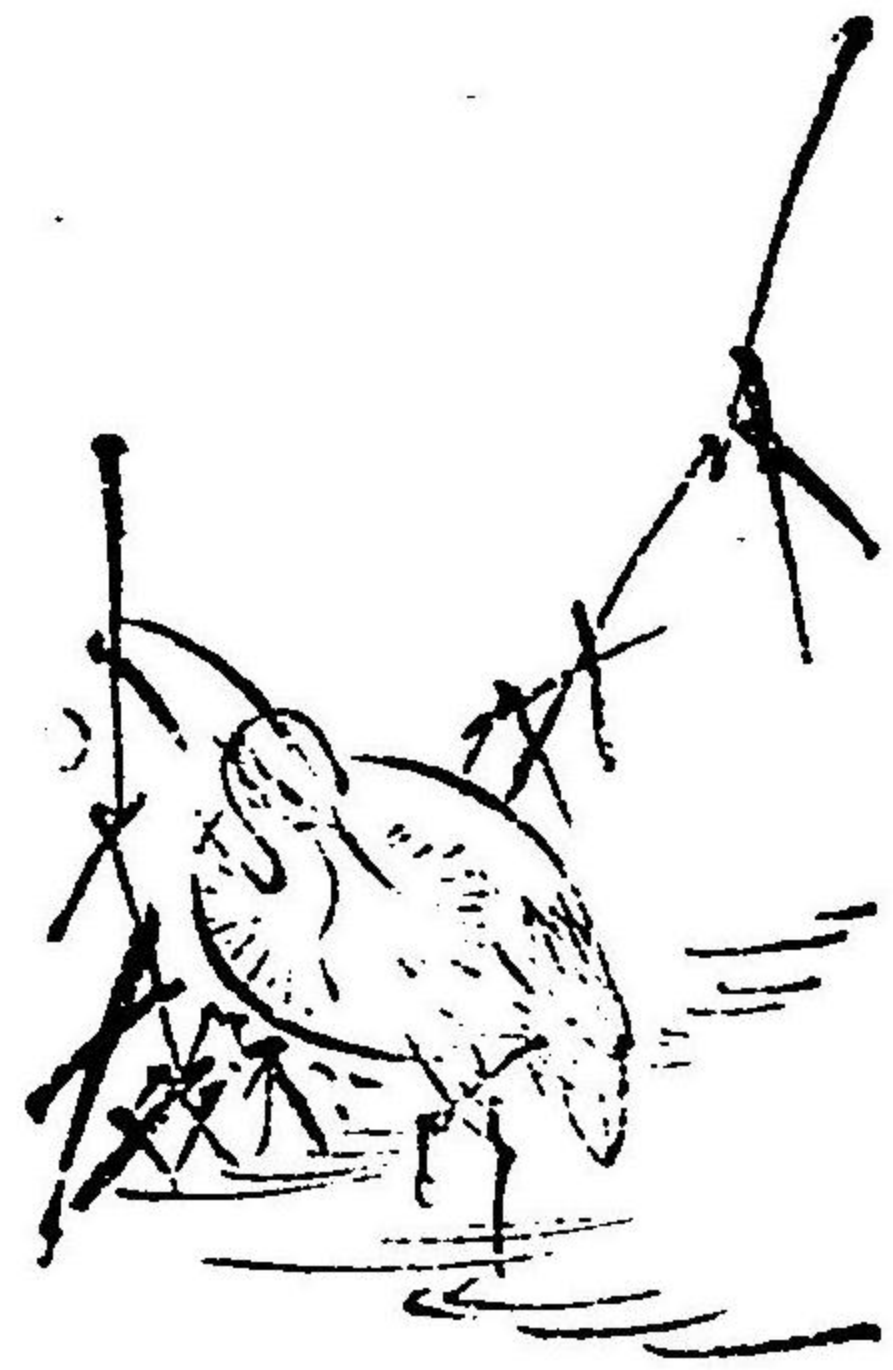
勤 業 功 績 録

獨り其受賞に止まらず、昨年四月二十八日付を以て、横須賀海軍造船廠より、同社の鋼索甲乙品と英國トーマス、スミス會社の鋼索甲號製品との耐力試験を證明したるに、スミス社の甲號品は耐力二十一噸にして、東京製鋼會社の甲號品は實に二十四噸を有し、乙號尙はスミス社に優ると一噸なりしを以て見ても、其優に外國品を凌駕しつゝあるを知るべきなり、同社の兵庫分工場は、明治二十八年の設立にして、規模本社と同じくして稍小なるものなり、其深川分工場は三十年に建築し、三十一年より開業したるものにして、英國最新式鋼索製造機械の購入と共に、熟練なる技師ウィリアム、ヘンリー、ウード、及びジョセフ、ウヰルソンの兩氏を聘して斯業を傳習し、爾來熱心なる本邦技師の研究と、勤勉なる職工の習熟とに依り、以て今日の名聲を博するに至りたるものにして、其鋼棒より線を製し、亞鉛鍍を施し、鋼索を製造するの工場は實に同所を以て東洋の嚆矢とし、又た實に現時東洋唯一の鋼索製造所たるなり、同社の資本金は五十萬圓にして、拂込済金額は四十五萬八千圓、又た其積立金は十六萬八千圓餘に及べり、而して之が重役の氏名は左の如し、取締役會長男爵澁澤榮一、専務取締役山田昌邦、取締役淺野總一郎、同矢野二郎、同深山小兵衛、監査役赤松範一、同渡部朔、同社が今日の名聲と信用を博し得たるもの、一に以上諸氏の施設其宜しきを得たる

に依るものにして、而して同社の前途は益々有望なるものあるを見る。

第一編 東京製網株式会社

百七十二



陸海軍用刀剣軍器衣
套馬具革具彈子商

小松崎茂助君 家號壽屋

(東京市芝區露月町十九番地)

一等賞牌受領

一個の實業家として陸海軍に功を歛めたる君の如きは蓋し稀ならん、君は茨城縣の人、父樂壽氏文政の末三十歳にして志を立て、商業に従事せんが爲め江戸に出で、數代連綿として有名なりし酢屋に奉公し、能く忠勤勵精の功を積んで、其技大に進む、偶々酢屋は不幸にして其家斷絶するに至れり是に於て氏は奮起自ら刀剣業を以て一家を爲さんと欲し、酢屋の名稱を襲ひて自ら之を創めたり、而して氏の技は當時既に世に聞ゆるものありしを以て、忽ち世の注目を惹くに至りたり、備前岡山の舊藩主池田侯、亦た氏の技を愛して深く信用する所あり、命じて其家號の酢屋を壽屋に改めしむ、是よりして其名聲益々揚りたり、君は實に其長男にして、天保十二年十月を以て生る、性快濶にして不羈磊落、人に接するに決して城廓を設けず、幼にして漢學を修め、最も算術に長ず、十三歳にして同業者村田屋に奉公し、研鑽其功を畢り、二十歳にして父の業を襲ぎ、爾來孜々として斯業に従事し、且つ最も刀剣鑑定の識に富む、明治五年帶刀禁止の令下るや、斯業者忽ちに恐慌し、君も亦た

一時他に轉業の已むなきに至り、種々の事業に手を染めて、備さに苦楚辛酸を嘗めたるは、到底筆紙の竭し得べきにあらず、然れども君は毫も屈せず、艱苦の中に在つて徐ろに氣運を熟察し、而して再び刀劍業に従事するに至れり、蓋し當時日本刀は廢れたるも、其刀は獨逸式サーベルと形を變へて、陸海軍人の腰に下げらるゝに至りたればなり、君則ち銳意之に従事し、一の完全なるものを作つて、今の中牟田眞木の兩海軍中將に賣納したり、是れ日本製サーベルの濫觴なりとす、當時天皇陛下築地の兵學寮に臨幸あり、兩中將佩用のサーベルを御覽ありて、御手許に御取寄の上御下問あり、兩中將謹んで君の製品なる旨を奏聞したるに、獻感斜ならず乃ち時の海軍少輔川村純義氏に御下命あり、川村氏自ら君の家に就き、海軍將校用サーベル三百口を特製すべきを命じたり、而して之と同時に畏くも御劍を特製するの恩命に接せり是れ實に明治六年なり、君の光榮亦大ならずや同七年君は海軍省より英國製海軍士官のイボレット(肩章)に倣ひ、之を調製すべきの特命を受けたり、當時我國には金モール製造の術を知るものなし、君自ら其製造法を發見せんとし、苦心經營至らざるなく、而して終に能く金モール製イボレットを完製するを得たり、時恰かも文武官大禮服の制定あり、君命せられて其製造を一手に引受け、能く數多の同服を調達したり、翌八年山縣有朋侯陸軍卿たりしの時、將校の軍刀を一定し、之を築地獨逸某商館へ注文の事あり、君之を聞て大に驚き、苟くも日本の軍刀を外國

勳業功績錄

に注文するは、危險にして且つ恥辱なるの旨を以て、自分に之を受負はしめられんことを請願したり、當時三浦、桂、兒玉等の各將校君の爲めに盡力する所ありしも、其擔任者たりし大山巖侯は、曾て君の製品と獨逸製品とを比較し、獨逸製品の優れるを見て之に注文したるものなる旨を諭して其請願を却下したり、然れども侯亦た君の赤誠に感ずる所あり、乃ち某商會への注文を五十日間延期するを以て、其間に更に精品を製作して差出すべく、而して若し其品にして優る所あらば、之を用ゆべき旨を命じたり、依て君は奮勇一番、斯界の泰斗土野直堯氏と謀り、苦心經營終に能く獨逸製に優るものを作り之を差出したるに、果して陸軍省の採用する所となりて、直ちに三千五百口、時の代價四萬圓のものを製出して之を完納し、外國商會への注文は終に沙汰止となりたり、是れ獨り君の名譽のみならず、又た國の名譽と云ふべきなり、明治十二年西南戦役の後、陸軍の服制を一定せらる、依て其全國軍人の着用すべき、獨逸式に倣へる肩章腰筋金モール製帽等の見本製出一切を、君一人にて引受くることとなりたり、當時目黒大崎村に毛染兼毛織物師後藤恕作なる人あり曾て森金之與有禮子の從僕となつて米國に航し、斯業を研究して歸朝したるもの、才識兼備はり、頗る有爲の人物なるを以て、君之に望を囑し、共同事を謀ることを約し、先づ海軍水兵用のセル地を試織せしめたり、其原料の羊毛は之を天洋に求め、手製を以て二千ヤールを織成し、其品は海軍省の購入する所となる、是れ我國セル

地織の濫觴なり、明治十六年更に大にセル地を製織せん爲め、多數の羊毛を天津より輸入したるも、其毛極めて荒く且大なりしを以て、如何に工夫するも之をセル地に織る能はず、左れを原價三千圓の羊毛空しく捨つるに忍びざるを以て、更に種々の考案を凝し、遂に之を以て毛布フランクートを製出するに至りたり、是亦た同品製出の濫觴なりとす、而して此品亦た海軍省の購入する所となれり、斯の如くにして君は暫らく後藤と手を携へたるが、其才を愛すると同時に、又た之を使用する能はざるを悟り、二十三年之と一切の關係を絶つに至れり、後藤は其後直ちに三井、岩崎等の富豪を説き、府下品川に日本毛布會社を設立し、又た後藤製絨所を設けて俱に非常の大成を遂けたるが如くなりしも、一敗忽ち地に塗れて立つ能はざるに至りしは惜むべし、爾後君は海外の輸入を防がん爲め、海軍水兵の夏帽、テリメス服、附屬品一切等を摸擬製作し、之を其需要に供して輸入防止の目的を達したり、之より先君は宮内省及び陸海軍省、警視廳等の御用を勤め、多年之を持續し來れり、三十一年清國張之洞の部下張魁なるもの、來りて我陸軍省に出頭し、軍用品購買の紹介を求め、同省乃ち君の家を指名し、君其求めに應じて軍服其他を調製す、爾來引續き清國の軍服用は、君の手に依りて供給する所たり、亦た名譽と云ふべし、世界の刀劍中獨逸ソーゲンレンの刀鍛冶は其最良なるもの、君は十數年前より之に就て研究する所あり、終に能く奎目打の最良なるものを製作し、前年沐浴齊戒之を謹製

勤 業 功 績 錄

勤 業 功 績 錄

いて、天皇陛下に献上し、畏くも宮内省の御用品となり、又た東宮御慶事に際し、同二口を謹製して献上したり、君は斯の如くにして、商業よりも寧ろ工業に熱心經營し、併せて其製品を輸出し、以て國益を圖らんとを期し、數年前より暹羅、朝鮮等に向け刀劍、馬具被服、及び其附屬物、絨服等を盛んに輸出し來れるが、北清事變鎮定の當時發せられたる軍器輸出の禁令本年八月に至り解かれたるを以て、今後更に大輸出を圖らんと企てつゝあり、而して其販路は内地は云ふ迄もなく、外國は前記二國の外清國、米國等にして、昨年之製造高十五萬餘圓の内六分は内地に、他の四分は是等諸外國に輸出せるものなりと云ふ、現今君の工場は芝區愛宕下町及び同新錢座の二ヶ所に在り、職工長三十八人、職工常に二百餘人を使役し、工場中鍛冶師、研師、鋳師、木鋳師、鑄物師、鍍金師、彫刻師、塗工師、皮具師、馬具師、金銀モールド師、海軍夏帽師、縫箔師、織物師、粧飾師等の各部に分ち盛んに製造なしつゝあり、目下我國サーベルの製造人は全國を通じて、君の家の職工にあらずんば君の家に恩顧を蒙れるもののみなりと云ふ、以て如何に君が斯業に貢獻せるかを見るべきなり、君は曾て種々の名譽職に就き、又た公共事業の爲め頗る力を竭したり、明治十四年東京府會議員となり、芝區會議員となりて、二十四年之を辭したるが、其在職中君は藤田茂吉氏と進退を共にし、福地源一郎、故沼間守一氏等と反目し、辯難常に花を咲かせたり、當時愛宕下に東京府病院なるものあり、年々四萬圓

の地方税を補助しながら、其病院は患者の診察料を徴收し、入院料を受け、又た藥代を取りて、補助病院の實毫もあらざりしなり、君藤田氏と意を固ふして之が廢止を主張す、福地沼川の兩氏之に反對し、盛んに辯難攻撃し、一時世人の耳目を集注せしめたるが、終に君等の勝利に歸したり、次で君は二十六名の有志と共立東京病院を起し、戸塚文海氏を院長に、高木兼寛氏を副院長に推し、各自二百圓を醸出し之に寄附したり、斯くて二十一年に至り、高木氏等の施設宜しきを得て、同病院は益々隆盛に赴き、其資は實に意外にも二十萬圓以上を剩すに至れり、是に於て高木氏は君等有志と謀り、飽迄之を慈善的性質のものたらしめんと欲し、全國貴婦人團体に讓與し、而して畏くも、皇后陛下の聞召さるゝ所となり、茲に其組織を改めたり、是れ即ち今の慈惠病院なり、是より先明治十四年君は箱根に遊びて急病に罹る當時箱根は温泉地として千四百の人口を有せるにも拘はらず、一人の醫師なく、直ちに小田原に醫師を迎へ、三十時間にして漸く其來診を受けたり、君の義侠此不便を見るに忍びず、病癒えたるの後、自ら進んで二百圓を投じ、以て同地に醫師出張所を設け、且つ月手當二十圓を給して、小田原の醫師西岡清庵氏を出張せしめ、大に土地の人民及び浴客の便利を圖れり、時の郡長内山勘五郎氏大に君の勞を多とす、然るに同出張所設立後四年にして火災に罹り、爾後同出張所は廢されたるも、神奈川縣廳此に感ずる所ありて、今日永續しつゝある所の底倉病院を起せり、即ち此病

院は君が一片の義侠に生れたるものと云ふも誣言にあらざるなり、君の嚴父は八十九の高齡を以て長逝す、其遺言に曰く、此家を移るべからず、飽迄壽屋の家名を輝かせよと、君感奮益々勵む所あり、然るに不幸にして其翌年君の家火災に罹り灰燼に歸す、君是に於て在來の日本家屋の不安心なるを感じ、町内の同志を説き、悉く土藏若くは煉瓦造となさんとを勸め、爲めに約一萬圓を費して、終に町内概ね土藏煉瓦造となすを得たり、君は明治二十一年海防費中に金一千圓を献納す、人以て賄賂的献金となす、何ぞ知らん是れ國を思ひ兒を思ふの至情な出でんとは、君に一子あり銚太郎と云ふ、五歳の時過つて屋上より落ち、頭骨を破りて九死に一生を得たるも、爾後瘵疾同様となりて、芝白金三光町に別居せり、若し銚太郎氏にして健康の身ならんには、軍人となして一廉邦家の爲めに盡さしめんを、今將た如何ともなし難きを慨し、乃ち愛兒の奉公盡忠に代え、其萬分一を償はんが爲めの献金なりしなり、以て其至誠を見るべきなり、君最愛の一子斯の如く家を繼がしむる能はず、依て先年大倉組の支配人某氏の媒に依り、肥後高瀬の人西郷素一氏を養子とす、氏は本年二十五歳、曾て三年間君の家に職工として雇はれ、其忠勤勵精、能く君の洞察する所となれるなり、君本年六十三歳、鏗鏘として壯者も及ばざるの概あり、編者其寫眞を求む、曰く死ぬ一時間前ならでは之を撮らず、然れども尙容易に死するの模様なしと呵々大笑す、以て其意氣の壯なるを見るべし。

婦人用美術 裝飾品商 奥田重兵衛君

(東京市京橋區南傳馬町三丁目七番地)

三等賞牌受領

君本年二十有七歳、容貌端麗にして一見其甚だ壯なるを覺ゆ、性柔和にして、商業家として最も欠ぐべからざるの愛嬌に富む、蓋し天資斯業の好模型として生れたるものと云ふべきなり、君疾く母に缺れ、父重兵衛氏の手に人となる、父氏は安政年間を以て斯業を始めたるものにして、頗る髓甲金銀細工類等の技に富み、其製作の頭飾品の如き、最も世の婦人社會の愛用する所となり、時に流行の源泉となれるも、尠からず、斯くの如くにして父氏は能く拮据經營し、其業務を愈々擴張すると共に、其製品を愈々精巧にし、隱然斯業の重きをなしたるの一人なりしに、惜ひかな君が十七歳の時溘焉として長逝したり、當時君の落膽果して如何、身は未だ弱冠ならずして、浮世の辛酸曾て之を嘗めたることなく、特に蒲柳の質を以てして、杖と頼む父に缺れたることなれば、世間普通の少年なりせば、必ず其方向に迷ひ、策の施す所なくして店を閉づるの悲境にも陥りたるならんを、君柔和の中に動かすべからざるの志氣あり、能く善後の策を立て、業務を繼續し、身は斯業に熱心して、只管其

勤 業 功 績 録

勤 業 功 績 録

技を磨き術を練り、父の名を襲ひて二代目重兵衛と稱し、幾多の手代職工を使役監督して、敢て遺算あるとなく、以て能く益々家運の隆盛を來すに至りたり、而して君は最も技術に長け、金銀髓甲等より角類に至るまで、其細工の巧妙なる頗る感ずべきものあり、特に指環、帶止、櫛、簪、簪の如き、最も其巧を極むと云ふ、左れば弱冠の身を以てして、從來幾多の博覽會共進會等に出品し、賞を受けたることも尠からず、殊に幾回の水産博覽會には、必ず其髓甲細工品の如きを出陳して、其都度名譽の賞牌を受領せざるなく、又た今回第五回内國勸業博覽會に出品したる頭飾品の如き、能く三等賞を受くるに至らしめたるもの、以て其長技を證すべきなり、本書巻頭に掲ぐる君の肖像の如き、人只だ其一個の美少年たるを見ん、而かも其の奪ふべからざるの志氣と、感すべきの技術とを有することは之を知らざらん、君や實に實業界に於ける、將來有望の一人物と云ふべきなり。



東京帝國大學
醫學部解剖標本製造元
山越工作所代表者

山越長七君

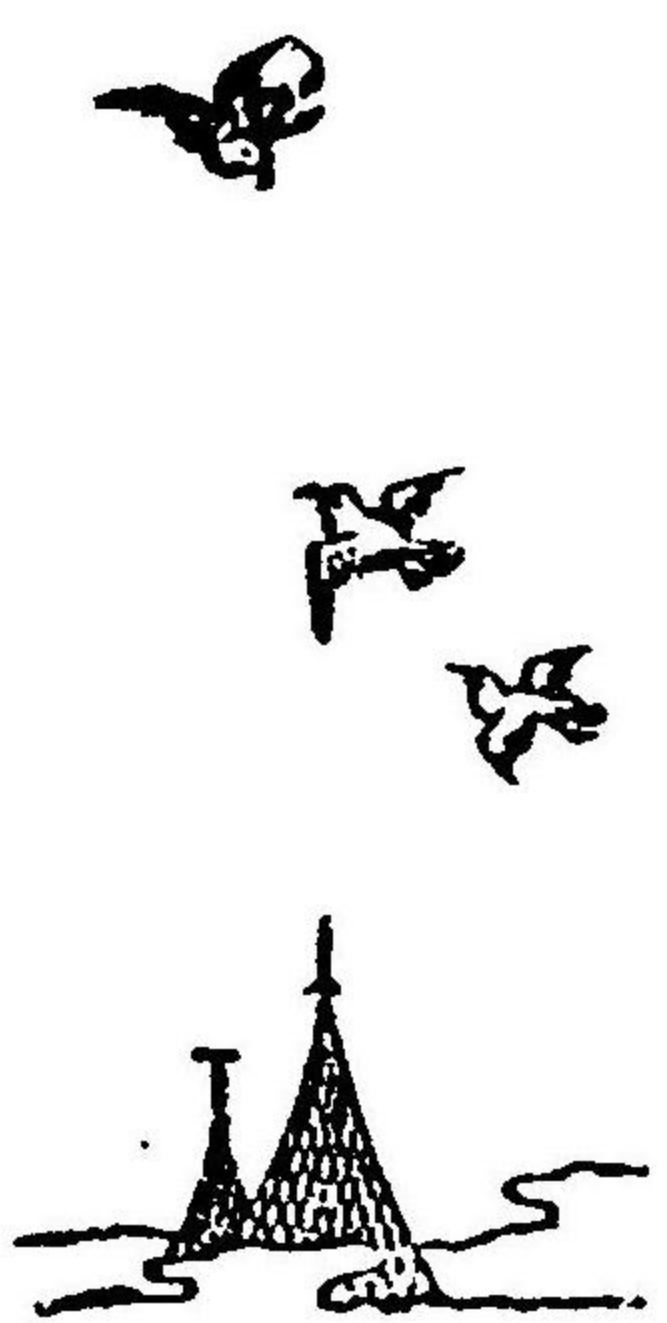
(東京市下谷區徒町三丁目一番地 電話下谷一六七九)

一三三賞牌及褒狀受領

君は嘉永二年三月三日を以て生る、父を徳兵衛氏と云ふ、君資性伶俐にして快活、能く理想に富み、事に當つて最も勤勉なり、明治十年東京帝國大學醫學部大學に入り、解剖學士今田東先生の教訓を受け、人體解剖及模型の製作を練習し、刻苦能く之を修得して校を退き、明治十三年を以て下谷竹町に人體解剖標本の製作工場を設立し、帝國大學、文部、内務、農商務、陸軍の各省、全國各病院、道廳府縣高等學校等の御用を勤め、後當時の工場を建設して之に移りたるが、君は世の趨勢に伴ふて世界知識の均勢を圖るには、實業教育の寸時も忽せにすべからざるを覺り、之に裨益を與ふる所あらんが爲め、更に事業を擴張して、博物解剖模型の製作に従事し、第三回及び第四回の内國勸業博覽會、東京工藝品共進會等に、人體局部解剖標本を出陳して、何れも重賞を得たるより、更に其事業を擴張して、全國高等病院、各専門學校、實業學校等の教科用學術器具を製造するに及んで、男女職員及び徒弟を使役すると百を以て數ふるに至り、業務愈々繁盛を極めつゝあり、而して君の製品は能く

世の日進月歩に伴ふて、各博士學士の卓論に採り、實地解剖及多年の實驗に則り、能く嶄新に、且つ能く意匠を凝らし、學術標本を製作するに六合を網羅す、左れば其需要は獨り内地に止まらず、汎く天津、北京、四川、陝西、福建の各省に及び、是等各地の學堂より、注文を受けたる、幾十回なるを知らず、以て隣交國を益するとも尠からざりしが、本年六月に至り、君は更に感ずる所あり、東洋醫學教育の發達を圖らんが爲め、東京帝國大學教授小金井博士の證明を得たる、特別上等人體解剖模型なる學術標本代價五百圓を、外務省總務長官珍田捨己、同人事課長松方正作兩氏の紹介に依り、清國貝子載振殿下に托して清國政府に獻納し、以て益々善隣交誼國の教育獎勵を促したり、此模型は目下北京大學堂附屬譯學館に裝置せられつゝあるが、其學生を利する所決して尠少にあらざるを知るべきなり、今回第五回内國勸業博覽會の開かるゝに當つてや、君は實用新式腦髓模型及心臟、蠶體、齒牙等の各放大模型其他蹄冠標本等を出陳して、一等銀牌、二等銀牌、三等銅牌及び褒狀等數種を受領するの榮を得たり、是れ實に君が多年の功勞に依るものにして、斯業の光榮と云ふべきなり、而して更に同博覽會出品中、東京農事試驗場、蠶業講習所、札幌農學校、夏知縣立農學校等の陳列品にして、紙型模型に關するものは、何れも過半君の丹誠に成りたるものなりとす、以て君が如何に斯業に熟達の譽を得居れるかを知るべきなり、君は斯の如くにして斯業の成功を告げたと同時に、其身を持

すると極めて恭儉にして、且つ専ら仁慈を旨とし、職員徒弟を撫育すると慈母の愛
 兒に於けるが如くし、而して其家庭は更に大に圓滿なるものあり、夫人との間に長
 男良三、長女久子の二子を擧ぐ、良三氏本年十九歳、能く東京医科大学に入るを
 特許されて、小金井、大澤、田口等各博士の教訓の下に、孜孜として實物解剖學を
 修め、傍ら新式解剖標本の製作に従事して、能く乃父を辱しめざるものあり、以て
 君が撫育の能く行届けるを察すべきなり、君又た内能く儉を守ると同時に、外甚だ
 客ならず、其一舉一動人をして推服せしむるに足るものあり、君が今日の隆盛を見
 たるもの、亦た所以あるかな。



御宮内省 達 杉村清吉君

(東京市芝區櫻田本郷町四番地)

三等賞牌受領

君の店は皇國及び各國勳章綬、洋館室内裝飾糸類、和洋糸組物一式の製造販賣業と
 して、夙に其名を海外に知らる、君は其業を始めてより二代目にして、本年四十有
 九歳、資性淵達にして、且つ義侠に富む、明治十九年日本赤十字社の初めて設立さ
 るるや、大に其趣旨を賛し、進んで入社し、同三十四年終身社員となり、又た金圓
 及び物品を同社に寄附す、君又た体育の最も必要なるを悟り、之が爲めに頗る盡力
 する處あり、現に日本體育會名譽會員たり、其他君は公共事業に最も力を盡し、其
 筋より衰狀及び賞益等を賜へると數度に及べり、以て君が性行の一端を知るに足る
 べし、而して其業務に熱心なるは云ふ迄もなく、先代の業を襲ひてより専ら心を斯
 業に委ね、品質を精選し製法を改善し、又た能く事物を工風するの才に長じ、依て
 以て顧客の注目を惹き、業務の擴張を來したると尠からず、其宮内省の御用を受け
 たるは明治十年にして、爾來一層業務に専心し、孜孜勉勵して怠らず、能く同業者
 間の重きをなして、其名聲甚だ高まりたり、爾後今日に至るまで引續き宮内省御用

第一編 杉村清吉君 百八十六

達たるの外、諸官省及び日本赤十字社等の用達をも命せられ、能く其任務を完ふしつゝあり、君の支配人を高橋金次郎氏と云ひ、亦た能く業務に熱心にして、且つ事を處する極めて忠實、君を補佐して能く今日の隆盛を來さしめたるの功、亦た決して尠しどなさざるなり、同店販賣品の製造に従事する職工は常に三十名内外に達し、其一ヶ年の販賣額は優に三万餘圓に上ると云ふ、以て其繁盛を知るべきなり、君製には第三回内國勸業博覽會に出品して受賞せるとあり、今又た第五回同博覽會に出陳したる内外國勸業章綬に對して三等賞牌を得たり、



輸出向囊物裝飾
革類製造販賣業

熊谷卯八君

(東京市日本橋區藥研堀町二番地)

一等賞及二等賞牌受領

君の家は累代革細工及び裝飾革製造販賣を以て業とし、老舗として夙に其名を知られたり、君は明治九年を以て現住地に生れ、六歳にして小學校に入り、卒業の後商業實習の爲め、日本橋通の革商小泉氏の門に入り、皮革製造法に就て拮据精勵し、主家の爲めに盡したる處尠からず、十六歳にして不幸父を喪ひ、爲めに主家を辭して家に歸り、其遺業を繼いで店務を總括するに至りたるが、君の伶俐銳敏なる、弱冠の身を以て能く此大任に當り、施設機宜に適して敢て遺算あるなく、人をして敬服せしむるものありたり、而して君更に大に感ずる所あり、以爲く、今日の時勢單に内地の商業を目的として踟躕すべきにあらず、宜しく其製品を海外に向つて輸出するの策を講じ、以て國益を計らざるべからずと、然るに海外の輸出を試みると欲せば、先づ彼國の事情に通じ、其嗜好の如何を探らざるべからず、而して彼國の事情に通せんには、先づ外國語を知るより捷徑なるはなしとし、乃ち業務の餘暇を以て熱心英語を研究し、三年間にして全く通話に熟達するに至れり、是れよりして外

勤 業 功 績 錄

人の本邦に來遊するものある毎に、屢々之に就て彼國の事情を糺し、其人情風俗及び商業の實況等に關し、大に通曉する所のものあり、其取調べの精密なると、實地彼地に遊びたるものも尙且及ばざる所のものありと云へり、斯くの如くにして君は能く彼國人の嗜好等を斟酌し、其製品に改良を施せるの點も尠からず、依て英、米の二國に委託販賣店を特約して、大に業務の擴張をなし、盛んに輸出を圖りたるに、君の爛眼は能く彼國人の意に投じ、着々其好果を奏して、今や内外人の日々店頭に來るもの踵を接するに至れり、君又た天資、意匠の考案に長じ、斯業に能く他の機先を制して、内外の美術を應用し、嶄新なる意匠を案出して、專賣特許意匠登録を受けたるものも尠からず、又た内外の博覽會、品評會等に出品して、賞牌を得たること枚擧に遑あらず、就中露西亞國萬國服裝大博覽會に於ては名譽なる大金牌を受け、今回の第五回内國勸業博覽會に於ては其輸出貨物各種に對して一等賞を、其裝飾革に對して二等賞を得たるが如き、全國同業者中未だ曾て其類を見ざる所にして、以て君の製作品の如何に精巧にして、能く内外人の嗜好に適し、其需要甚だ盛んなるかを推知するに足るべきなり、尙君の製品は、常に農商務省商品陳列館、東京上野内國商品陳列館、大阪府立商品陳列館、高知縣立商品陳列館等に陳列しあるを以て一たび其場に臨みたるものは、何れも之を一覽して其精良に感ぜるところなるべし、君は斯く斯業に熱心にして且つ精巧なるを以て、夙に世の推重する所となり、尙は

勤 業 功 績 錄

若年の身を以て、東京袋物煙草具卸商組合委員に擧げられ、又た第五回内國勸業博覽會審査補助に選ばれ、其他明年開かるべき聖都留萬國博覽會東京出品協會商議員に推さるゝに至りたり、蓋し博覽會審査補助の如き、三十歳未満の身を以て此大任に當りたるもの、恐らく君を除いて幾人もあらざるべし、以て如何に君の重視せらるゝかを知るべきなり、



ゴム櫛笄簪、ゴム
洋傘柄製造販賣業

山口喜太郎君 伊勢屋商店

(東京市淺草區福井町一丁目三十番地)

三等賞牌受領

君は元治元年三月を以て東京市京橋區松川町十二番地に生る、十一歳にして商業見習の爲め日本橋區小傳馬町三丁目鼈甲問屋島田定吉方に奉公し、十一年間勤績して、勵精研究能く修得する處あり、乃ち主家を辭し、自ら日本橋區馬喰町一丁目一戸を構へ、鼈甲問屋の店を開き、専ら婦人用頭飾品を鬻ぐ、而して現今専ら行はるゝ處の頭飾品に蒔畫を施せるものは實に君の創造する處にして、此品一たび世に出づるや、人氣忽ち之に集注して、流行一時に起り、爲めに須臾の間之を摸造するものあるに至れり、以て此品の如何に勢力を有したるかを知るべきなり、而して更に君がゴム製品を造るに至りたるは、今より十餘年前の事にして、其之に着手するに至りたる次第は明治二十三年の頃米國よりセルロイド(通稱人造象牙)の少量を輸入し來りたるも、該品の製作を試むるもの更にあるなく、爲めに其輸入は中絶せんとしたるを、君大に見る所あり、乃ち該品の性質を試験したるに、柔軟にして且つ能く強耐力あるを以て、之を洋傘把手に製造するに、從來行はるゝ處の角質製把手の比に

勳 業 功 績 録

勳 業 功 績 録

あらず、極めて良好にして且つ實効あるを認められたれば、之を製作して以て斯業に一革新を來さんことを決心し、爾來其製作法に就て苦慮研究する處あり、終に能く完全なる製法を案出するを得て、茲に其製造販賣業を初めたるに、能く社會の稱賛を博して日に月に需要の増加を來したり、是に於て君は能く其製造業に成功したるも、其原料たるセルロイドは之を外國に仰ぐものなるを以て、之をも内地に於て併せ製造するを得ば、國益に資すると極めて大なるを思ひ、種々之に對して苦心する處ありしも、事情の已むべからざるものありて之を果さず、結局セルロイドの未製品を輸入し、之に依りて製作するととなれり、爾來君は尙ほ其製法の改良に心を傾け、愈々精良の品を製出するに至りたれば、明治二十七八年の頃には、早く既に内地需要把手の七八分を占むるに至りたり、當時歐洲より同品の輸入なきにはあらず、りしも、彼我の製品を對照して、意匠の美妙なる敢て一步も外國品に譲るとなく、殊に其價格の廉なるは、殆んど外國品の三分の一に足らざる程の低廉なるを以て、人々争ふて君の製品を求むるに至り、爲めに外國品は一の見本品に止まれるが如き姿となれり、是に於て君は既に最初の目的たる輸入の防遏に就て充分の功を奏するを得たれば、更に進んで之を輸出するに至らば、其國益に裨益すると愈々大なるものあらんを思ひ、初めは某有志に謀りて、支那、孟買、地方に其見本品を送りたるに、是亦大に其國人の嗜好に適し、其年直ちに相應の注文を受くるに至り、爾後年々

歳々輸出の額を増して、今や意外の巨額に上り、此兩三年間は支那、孟買の外、米國、印度、新嘉坡、香港其他の各地にも輸出さるゝに至り、君が製作品の八九分は實に此輸出に充てらるゝの盛況を見たり、是に於て其第二の目的たる海外輸出に於ても又た充分の功を奏するを得たるは、獨り君の幸福のみならず、又た國家の爲め大に賀すべきの事と云ふべし、而して右の輸出は最初は重に洋傘に完製したるものゝみに止まりしも、此一兩年は多く把手のみを以て輸出さるゝに至りたるは、愈々同品の外國の嗜好に適するを證するに足るべきなり、君は又た洋傘柄の外、夙にセルロイドを以て櫛、箒、簪の類をも製出し、早く既に本籠甲の類似品として、市場に一部の地位を占めたるが、其後年々に需要の増加を來し、明治二十七八年頃に至りては、殆んど櫛、箒、簪等の使用者中、七八分は其需要を此に仰ぐに至れり、依て君は更に百難を排して其製作方法に大改良を加へ、体裁の善美と、物質の堅牢と、價格の低廉なるを主眼とし、愈々顧客の便利を圖りたるが、同品の班點の艶麗なると遙かに本籠甲の上に出で、殊に其堅牢なるは本籠甲に數倍し、而して價格は其十分の一にだも及ばざるを以て、需要愈々増加し、殆んど本籠甲を壓倒し、盡すに至りたり、其他君は又たセルロイドを以て掛物の軸、卷莖入、輸出向腕輪等の製作をもなし居れるが、何れも其嗜好に適して相應の賣行あり、業務口を逐ふて倍々盛大に赴けり、君は四五年前を以て今の處に移轉し、之と同時に淺草新福井町五番地に

勳業功績録

工場を新築したるが、其後更に業務の擴張に連れて、同區福井町一丁目三十番地に別工場を設け、今や新福井町の工場にては専ら洋傘把手のみを製造し、福井町の工場に於て頭飾品等一切を製造し居れるが、其機械は蒸氣力を以て之を運轉し、職工は通勤のものその他を併せて常に二百餘名を下らず、原料は獨英米の三國に取りて、一ヶ年の製造高は實に十五萬圓以上の巨額に上りつゝあり、今回第五回内國勳業博覽會に於ける君の見本品陳列所は工業別館の入口に於て三間計の廣地を占め一種類に付き一品づゝを陳列したるにも拘はらず其出品多數にして悉く陳列する能はず、爲めに其儘送還したるものも尠からざる程なりし、又た其賣品は會期中注文極めて多額に上り、殆んど賣切の盛況を呈したるは、以て其如何に世に歡迎せられつゝあるかを知るべきなり、其之に對して三等賞を得たるは、君の經營宜しきを得て能く同製作法の完成を遂げ、意匠の巧妙と價格の廉なるを以て能く内外人の嗜好に投じ、獨り外國品の輸入を防止したるのみならず、進んで多額の輸出をなすに至り、以て國益に資せると尠からざるの點にあるるべし、然れども君は之を以て甘んぜず、更に其施設を整へ準備を堅ふして、一層輸出の盛大を期するの目的なりと云ふ、將來の盛運更に思ふべきなり、以上の如く君は斯業に最も功を奏したるを以て、夙に實業者間の推重する處となり、現に洋傘柄工業組合の頭取として、又た護謨櫛共榮會の頭取として、専ら斯業の隆盛に盡瘁しつゝあり、其功亦た多とすべきにあら

すや。

第一編 山口喜太郎君

百九十四



徽章類製造販賣業
日本帝國徽章商會主

鈴木梅吉君

(東京市麴町區飯田町三丁目十番地)

三等賞牌受領

君は安政五年を以て東京市牛込區に生る、父を宇佐美小兵衛氏と云ふ、幼にして母を失ひ、祖母の手に養育せらる、祖母乳なきに困り近隣の矢野はつに就て之を乞ひ以て生長するを得たり、當時父小兵衛氏は牛込京屋の番頭たり、京屋は近傍に比なき豪家にして、諸大名に夥多の金員を貸出し居たるものなり、君は此縁故よりして十歳の時同家の支店に小僧として住込みたり、其十一歳の時恰かも明治維新に際して舊藩なるもの廢せられ、爲めに京屋が諸大名に貸出せる金子は殆んど回收の目途なく、大家の柱礎も忽ちにして頽れんとするに至れり、父小兵衛氏専ら其恢復に力を盡せるの矢先、不幸にして一朝病魔の襲ふ所となり、終に溘然長逝したり、時に君甫めて十三、父の死を悼むと共に主家の衰運を慨し、獨り心を傷むると雖も、幼少の身復た如何ともする能はず、其十七歳の時に至つて主家は終に全く破産の不幸を見たり、爾來君は備さに辛酸を嘗め、二十二歳にして今の鈴木家に養子となる養父は故福澤諭吉翁、故丸善店主林有的等の設立に係る横濱細流社に支配人たりし

勳業功績録

の人、明治十五年五月金二千圓を君に譲り、之を以て獨立の業務を営ましむ、君乃ち業を擇み、自ら質店を今の處に創め、別に其母と妻とをして小間物雜貨の業を営ましめ、勤勉事に當りて漸次店務を擴張するを得たり、而して明治十六年頃更に内國通運會社の取扱店を開きたり、同所は今の日本赤十字社が博愛社と稱し創業の際の所在地として同社の荷物運送頗る多き上に、其附近書生の住するもの多くして、之が荷物の運搬亦た頗る頻繁なれば、此業務は自他の便利となりて忽ちに其盛大を來したり、當時通運會社と直接契約を結び盛んに荷物の取扱をなせるもの其數多きも君は常に其首位を占めたり、然るに通運會社は其盛況を見て、君と契約あるにも拘はらず、更に自ら其取扱店を君の附近に設け、以て之と競争を始むるに至りたり君其德義に欠ぐるを憤ると雖も、敢て之と争ふことをなさず、乃ち直ちに斷然自己の取扱業務を廢したり、其心事の潔白なる以て見るべきなり、斯くして更に質業及び雜貨店に其力を盡し居たりしに、當時物價は大に下落し、世間不景氣の聲を以て充たさるゝと、其他種々の原因に遭遇して、業務忽ち損耗を來し、資金の七八分を失ふに至り、一時極めて困難の地位に陥りしも、君の誠實勤勉は深く他の信する所となりて、之に資金を貸出せるものあり、依て其業を繼續するを得たり、同二十二年の頃第一高等中學校及帝國大學にポートルース等の催ふしあり、兩校の教授等競潛の賞品として、永遠に紀念として傳ふべきものを與へんと欲し、君が小間物商と

勳業功績録

して金銀龍甲等の類を取扱へるを以て、其紀念品に就て君に計る所あり、君乃ち小間物職人として雇ひ入れたる職人をして、メタルを製造せしめ、之を同學校に納付したり、是れ君が本業に着手したるの初めにして、尙引續き其業に着手せる内慶應義塾及び農科大學等に於ても、亦た之を用ゆることとなり、其後東京共立學校、山口鹿兒島、熊本、金澤等各地の高等學校に於て、同じく賞牌及び帽章、正服釦等を用ゆることとなり、漸次其風の擴まりて、終に各中學校小學校等亦た悉く之を使用するに至りたれば、其需用頗る増加して、製造甚だ繁忙を加ふるに至り、君終に之を以て本業となし、以て一家を成さんことを決心し、先づ其質店を廢し、次で小間物雜貨店の營業をも廢して、専ら徽章製造業に着手するに至りたり、然るに初めは其製造の機械等更に整はず、製法甚だ困難にして従つて多數の製出をなす能はず、僅かに百個の注文を受くるも、之に二三月の日子を要するが如き有様なりしが君は最も斯業に熱心にして、之が經營に就き種々苦心する所あり、或いは専門家に就て機械の構造を糺し更に之に自己の考案を施す等幾多の苦心を重ねて終に完全なる機械を製出し、茲に業務を擴張し、數十臺の機械を据付け、盛んに之が製出をなすに至りたり、當時徽章類の需用は倍々多きを加へ、君の業亦た漸く人の知る所となりて、各地よりの注文絶えざるに至り、愈々茲に其業務を整頓し、其使雇の職工の如きは附近に自ら貸家を設けて之に住はしめ、極めて之を優遇して以て其位地に安心を與

へ、専ら業務に勵精せしめられたれば、職工の技術は益々進み、精功他に比類なきに至り、能く世の希望を充たすを得るに至りたるは、一に君の施書宜しきに依りたるものにして、爾來徽章、賞牌、金銀木杯其他粧飾品置物等總ての製作の準備を整ふるに至りたり、而して當時此業は殆んど君が獨占の姿にして全國の需要一に君に依りて供給されたるが、世間漸く其有望なるを悟りて、類似の業を營むものを生ずるに至り、中には粗製濫造をなし以て一時の利を貪らんとするものもあり、爲に君の信用をも併せ傷けんを恐れ、斷然區別を立てんが爲に、其名稱を日本帝國徽章商會と改め、登記の手續をなし、之と同時に愈々其業務を擴張し、益々精良のものを製出し、汎く全國の需に應じられたれば、世の信用一に君に歸し注文益々増加するに至れり、而して二十五年頃よりは、愈々徽章類の需用熾んにして、全国各地より君に對し、照會及び注文の來ると一層の夥しきを加へ、一々之が回答に困難を極めたるより、終に一案を起して、いろは分の戸棚を設け、日々來る處の多數の書狀は、一々之を帳簿に記入するの違なきを以て、其儘いろは分の棚に納め置き、其日附の順に依りて物品を調製することゝしたり、以て其如何に隆盛なりしかを見るべきなり、而して其の殊に著しく繁忙を極めたるは、明治二十六年に御舉行あらせられたる、銀婚御祝典の當時より、引續き日清戰爭の起るに際し、全国各地兵事議會等の注文引きも切らず、又た京都に開設の博覽會、及び同地に建設せられたる大極殿の寄附者及

び參拜者に與ふる紀念章及參拜章の如き、其種類七種にして個數約四十萬個の注文を請負へる等、實に名狀すべからざるの繁忙を極めたり、而して更に二十八年 大元帥陛下を始め奉り、各軍隊の凱旋の際には、全國各町村の團體より、徽章の注文驚くべき多數に上り、當時百三十餘名の職工が、晝夜製造して更に休息の違なきも尙ほ其注文に應ずる能はざる程の盛況にして、爲めに各町村の代表者能々出京して近傍の旅館に宿泊し、日々未明より君の店頭に詰め掛けて督促をなし、店員は残らず職場に姿を隠して客との面會を避け、注文品の出來上ると同時に之を店に運び、客と共に之を小函に納め、以て其客に渡すの有様にして、品物受渡の場合の如き、客は互に先を争ひ、其混雜火事場に異ならず、中に最も氣の毒なりしは、埼玉縣與野町の醬油醸造家某氏の如き、注文の徽章出來せざるが爲め數日間滞在し、日々同店の仕事を手傳ふて、漸く其出來上るや、直ちに夜中別仕立の車にて歸縣せる如き實に意想外の有様にして、店員殆んど寢食を廢するに至り、而して之に依り得たるの收利は甚だ妙からざるものありたり、之れよりして君は、更に全國軍隊及軍人の凱旋祝勝會を目的に、資力の及ぶ限り徽章の仕込をなし、之を全國に供給せんことを企て、先づ牙山、豊島、平壤、黄海の大捷紀念章及び凱旋紀念章の各種を合し、無慮三十餘萬個の多額を製出し、全國各市町村役場等に其見本を送り、手配を盡して其注文を待ちたるに、當時生憎惡疫流行し、祝勝會を秋季に延ばすに至りたれば

其季節の至るを鶴首して待ちたるに、案外にも廿八年八月十六日、勅令第百十八號を以て、勳章又は勅令に依り制定せられたる各種の記章に類似の標章は、何等の形状を問はず公然佩用することを禁ずる旨の布告あり、君が全資全力を竭して製したる三十餘萬個の徽章は、此一令に接して忽ち殆んど廢物となりたり、君の落膽果して如何、只だ茫然自失するもの數日間に涉りたりとは其心情誠に察すべきものあり、然れども君は敢て之が爲めに自棄するの人のあらず、乃ち心中に善後の策を立て、從來雇入れたる多數の職工に、夫々手當を施して漸次解雇し、最も着實と認むる者僅かに二十名を残し、而して法律の許す限り、或は徽章の裏面に針を附して和洋兩服の胸間に附することとし、或ひは羽織の紐及環等に附する方法を考究し、各地方に誘説を試みたるも、勅令の廢せられざる限り殆んど是等の手數も徒勞に屬し、年來得たる所の利益は、此一失敗の爲め悉く蕩盡するに至りたり、君其從來の好況と失敗とを、今日に想見して、共に夢の如き感をなせりとは左もあるべきなり、然るに之れが爲め徽章商會の名は益々汎く世人に知られ、而かも敢て信用を失ふることなく、更に又た今日隆盛の基を作りたるは、決して偶然にあらざるなり、斯の如くして右の勅令は一時嚴重に執行されたるも、爾後其取締自然に寛大となり、之と同時に實業、教育、宗教、慈善、遊技等其他諸會の續出し、何れも徽章を用ゆるより、君の業務更に又た隆盛を來し、而して將來益々有望の地位に立ちつゝあり、其製品

の販路は東京市附近は云ふ迄もなく臺灣北海道より名古屋、京都、大坂、中國、九州地方に及び、又た外國は清韓、布哇、マレー半島等に續々輸出あり、其他南洋居留民等の注文も尠からずと云ふ、本業は春秋の二期最も注文多く、君が現今常雇せる五六十名の職工を以てしては、此二期常に手廻り兼ねるの盛況にして、其注文の來書は尙依然いろは分の棚に納め、日附の順又は日限の切迫せるものより、順次製作して日々發送しつゝあり、今回其第五回内國勸業博覽會に出品して三等賞牌を得たるは、其製品精良にして且つ販路の廣き等に依るものなるべし、君は以上の如く最も職務に勤勉忠實の人なるが、之と同時に最も徳義を重んじ、且つ義侠の念に富み同情の心深く、從來他人の爲めに盡せること甚だ多く、殊に學生を愛し、學資を惠與して業を卒へしめたるものも尠からず、又た人と接するに更に上下の別なく、其使雇人に至るまで決して取扱を異にせざるは、最も人の信服する所なりと云ふ、曾て君が幼少の時乳を貰ふて育てられたる矢野はつ其後零落せるを見て、君懷舊の情に絶へず、乃ち補助を與ふる事數年更に同家に引取りて前後廿九年間殆んど母に對するが如く、觀花に演劇に多年心の儘に之を保養せしめ、昨年其女の死するに及んで極めて盛大なる葬儀を営みたるが如き、以て君の性行を窺ふに足るべきなり。

東京帽子株式會社

(東京市小石川區氷川下町十六番地)

一等賞牌受領

西洋の文物制度一たび輸入されてより、男子の結髪忽ちに廢れ、人々争ふて帽子を被るに至り、需要一時に夥多なるものありたるも、我邦未だ之を製造するものなく一に其供給を外國に仰ひて、爲めに財貨の流出するものも甚だ尠からざりしが澁澤榮一、益田孝、益田克徳、横山孫一郎、辻久米吉、得野通要の諸氏、夙に之を憂ひて相謀り、専ら絨帽を製造し、海外の輸入を防遏するの目的を以て、明治二十二年初めて日本製帽株式會社なるものを、東京市小石川區氷川下町に設立し、十一萬圓の資本金を以て事業に着手したり、當時我邦人の未だ之が製造法を知るものあらざりしを以て、米國人ウヰリアム、アンソンなる人を雇聘し、機械、原料の注文及び工事設計の任務に當らしめ、其設計成るに及んで、二十三年五月夥多の職工を雇入れ、初めて之が製造に着手したるに、未だ其成績の如何を見る能はずして、同年八月不幸にも火災に罹り、工場悉く烏有に歸したり、當時創業者の遺憾果して如何、然れども澁澤氏は敢て之に屈するなく、直ちに同志と謀りて善後の策を立て、再び

勳業功績録

勳業功績録

工場を新築し機械を整頓して、茲に同業を再興するに至りたるも、初めは未だ世の注目を惹くに至らず、社務の經營頗る困難なるものありしが、孜々として勵精し敢て撓むとあらざりしを以て、終に精良の品を製出するを得、二十五年始めて當業者より注文を受くるに至り、多少の利益を見ることを得たり、是に於て澁澤氏は更に其社務を整理擴張して、大に將來の設備を施すの必要を悟り、而して之を爲すには、一先其社を解散して、更に新たなる一會社を起すの利なるを悟りて、之を役員會に謀り、其賛同を得て、營業相續者を求め、之に會社の財産權利一切を賣却し茲に日本製帽會社を解散することとなりたり、而して之が相續者として起りたるもの即ち今の東京帽子株式會社にして、右は同年十二月を以て設立され、社務は舊製帽會社株主に於て處理するとし、其の資本金を三萬六千圓となし、舊製帽會社の財産權利義務一切を有形の儘買受け、舊工場に於て事業を開始したり、而して澁澤氏取締役會長に、益田克徳、藤本文作氏等取締役に推されて、拮据經營したるの結果社務愈々整頓し、二十六年十月を以て更に三萬六千圓の新株を募り、合計七萬二千圓の資本として、愈々製造を熾んになすに至りたるが、製品は漸を以て益々精良を加へ、能く世の信用を博するを得て、需要増加の一方に傾き、年々相應の利益を占むるに至つて、會社の基礎益々鞏固なるを得たり、是れ一に澁澤氏の經營其宜しきを得たるに依るものなればとて、三十年二月同社株主總會の決議に依り、株主總

代馬越恭平、喜谷市郎、右衛門、兩氏の名を以て、懇懃なる感謝狀を濹澤氏に贈り、以て氏の功勞を表彰したり、斯くの如くにして、同社は東洋に於ける製帽業の祖先たり、主動者たるの名聲を博し、其業務益々擴張して、常に百五十餘名の職工を使役し、蒸氣機關を以て諸機械を運轉し、其製造高一萬餘ダースの多きを見る今日の盛況に至りたり、而して同製造品の原料は多く之を英國倫敦に採れるものにして、製造品は中折帽子最も多く、兼てシルクハット、婦人用帽子其他をも製造しつゝあるが、本年上半季の決算報告に依て見るに、同半期間の賣上代金は實に十五萬七百六十九圓七十八錢一厘の多きに上り、優に外國品の輸入を杜絶し、會社の目的を貫徹するを得たり、今回同社が第五回内國勸業博覽會に出品したるもの十六七點而して其之に對して同業最重賞たる一等賞銀牌を得たる所以のものは、蓋し其製品精良巧緻にして能く世の需要に適し、併せて外國品の輸入を防遏するに功ある等の諸點に依るものなるべし、同社は三萬一千圓の積立金を有し、其基礎益々堅きを見る、現今の重役及び支配人氏名は左の如し。

取締役會長 濹澤榮一、專務取締役 早速鎮藏、取締役 堀江保、監査役 喜谷市郎、右衛門、同馬越恭平、支配人 土肥修策

ホース調帶及靴製造販賣業

木戸元次郎君 廣島屋商店

(東京市神田區小川町一番地)

三等賞牌受領

君は明治十年を以て東京に生る、其父昌之輔氏、廣島縣備後國三原町の人、世々淺野侯の家臣たり、弘化四年五月を以て生れ、幼にして武事に身を委ね、廢藩置縣の後深く時勢に鑑むる處あり、實業を以て身を立てんと欲し、明治七年以上京、而して心竊かに謂へらく、今や西洋の文物漸く輸入し來りて、靡然として之に倣ふもの一にして足らず、就中靴の如きは最も便利なるものにして、將來邦人の之を使用するもの益々多きを加ふるに至らん、若かず自ら其製造業に従事して、以て大に邦人の需要を充たし、併せて之が輸入を防止せんには、乃ち陸海軍御用製靴所中橋社に入つて、其製造法の傳授を受け、一ヶ年を費して之を修業したる後、更に職工として同社に雇はると一年、其技大に進みたるを以て、明治九年今の處に開店し、以て獨立の營業を爲すに至りたり、爾來心を斯業の改良發達に潜め、勉めて歐米各國の新奇なる見本を取寄せ、之に則りて更に自己の新案工夫を加へ、益々精品を製出して世の需要に應じたれば、大に其好評を博して、製造額目を逐ふて殖え、店務漸

勤 業 功 績 録

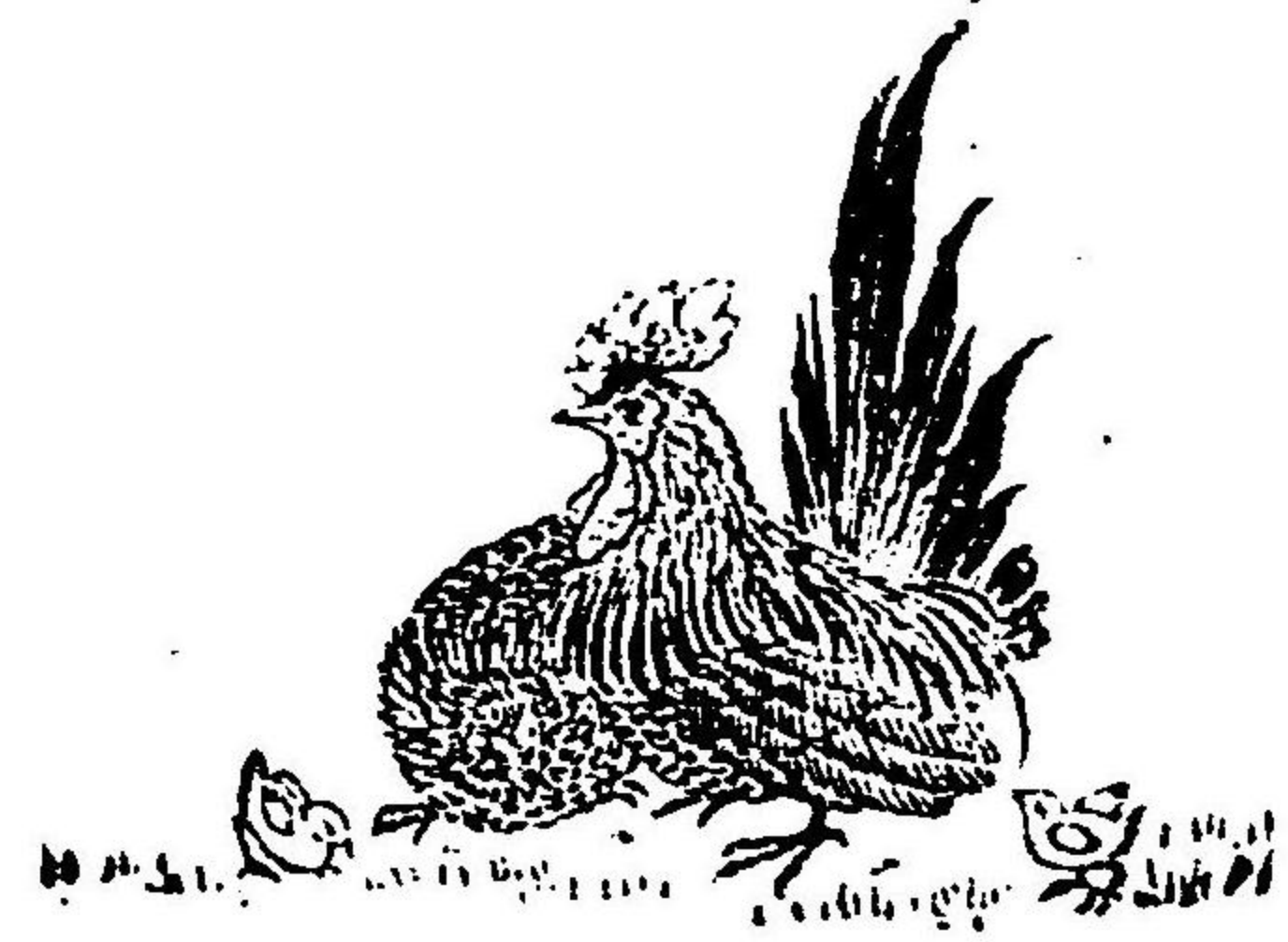
く隆盛を見るに至りたり、斯くの如くして拮据すると十四年、君亦た漸く長ずるに至りたれば、則ち明治二十三年を以て、初めて本業の傳授を受け、頗る通曉する所あり、依て更に技を磨き術を勵み、父を助けて斯業の改良に意を潜め、絶えず歐米新式の見本等に就き研鑽し、施畫する所尠からざりしに、明治二十五年神田に大火あり、君の家亦た其類焼する所となつて灰塵だも止めず、而かも敢て之に屈する事なく、鎮火の後直ちに其焼跡に新築工事を起し、工場其他に就て改良する處あると同時に益々業務を擴張し、一層盛大に販賣を初めたり、而して其販路は全国各地に行渡り、製出額年一年と増加して、大に輸入防止の功を奏するを得たり、而して君は熱心斯業に従事するの餘、更にボース製造業の將來大に有望なるべきを思ひ、明治三十一年一月を以て更に斯業にも従事するに至りたり、乃ち府下淀橋町元角管村に工場を設け、初めは世間の同製造業者に倣ひ、綿糸のみを以て之を製織したるも之を實驗に徴するに、使用未だ久しからずして、早く已に伸張を來し、又た動もすれば濕氣に遭ふて忽ち收縮する等、使用者をして不便を感せしむると尠からず、依て君は種々考案の末、初めは伸縮の憂なき麻糸のみを以て之を製出せんことを企てたるも、麻糸のみを以てしては機械に密着し難きの憂あり、因て更に工夫を施し、終に麻を中心とし、綿布を以て其外部を包圍するとし、之を製織して試みたるに、更に伸縮の憂なきのみならず、又た能く機械に密着して、且つ繼目厚薄等の不平均

勤 業 功 績 録

もなきを得、加ふるに其久しきに耐ゆるの點に於ても、敢て革製のものに譲らず、殊に中心は強硬なるラミー糸を撰擇し、實に完全なる精良品を得たるを以て、明治三十二年十二月以來専ら綿麻製のものに改め、汎く世上に賣出したるに、能く其需要に適し、事業日を逐ふて盛大に赴けり、君又た其製織機械に就ても種々考究研鑽する所あり、終に是亦た能く新案のものを製出するを得、其製織數量等遙かに従來のものに優るを得たり、斯くの如くにして君は年壯の身を持ち、能く此事業の大成を期するを得、初めは少數の機械を使用せるに過ぎざりしも、今や五十臺内外の新式機械を据付け、職工五六十人を使役して、盛んに之が製出に勉めつゝあり、而して同業者中未だ綿絲調帯を製造するもの一人もあらざるに付、此事業は殆んど君の獨占にして其販路は全國諸機械工場に及び殊に東京及び、横須賀吳の海軍造兵廠等最も多く、其輸入を防止するの功亦た甚だ尠からざるものあり、斯くの如くして昨年迄は父子共に斯業に勉勵しつゝありしに、父昌之輔氏は君の年壯なるにも拘はらず、能く周到の注意と緻密の考案を廻らし、施設悉く其宜しきに適するを見て昨年五月全く店務を君に譲り、隱棲して以て君の成功を眺めつゝあり、今回君が第五回博覽會に出品したるは靴と綿麻調帯との兩種なりしが、審査の結果は此兩者に對し、共に三等賞を授與せられたるなり、嗚呼君年少既に此成功あり、今後更に奮勵努力敢て怠るとなくんば、更に其大成功を見るも決して遠きにあらざるべし、期

して俟つ。

第一編 木戸元次郎君



醫療機械義手義足
眼鏡類製造販賣業

萬木九兵衛君 先利堂

(東京市本郷區本郷三丁目十四番地)

名譽銀牌他數十個受領

第五回、内國勸業博覽會に於て、名譽銀牌及有功二等賞、三等賞、褒狀等を合せ、數十個の賞牌を得たる君の如きは、幾萬の受賞者中他に其比類を見ざる所にして、此一事以て直ちに君が製品の如何に精巧にして能く内外の需要に應ぜるかを見るべきなり、君の祖先は近江國萬木村の人にして、寶曆年間江戸に出で、小川町表猿樂町に居住し、代々刀劍を好み、諸家の望みに應じて其鑑定を業としたり、後天保年間に至り、武器、刀劍及附屬道具類を營業とし、傳へて以て君に至りたるの舊家なりとす、君は最も業務に熱心にして、且つ創製の智力に富み、明治の初年特種の一閑張を發明し、職工米原某に其製造法を傳習し、各種の器物を製造販賣して、能く世間の嗜好を買ひ、同六年、澳國維納府大博覽會の開設に際し、種々考案を凝し、同人に命じて一層精巧なる數種の器物を製造せしめ、之を出品して賞狀を得、爾來其業を繼續して以て今日に及びつゝあり、君又た明治の初年本業の傍ら、醫療器械の製造販賣に従事したり、然れども其當時に在ては尙完全なるものを製作する能はず、僅かに歌洲製外科

器械を模範として、之に改良を加へ、製造したるものなるが、本邦人にして、醫療器械の改良に手を染めたるもの實に君を以て嚆矢となす、明治四年廢刀令の發布あり君乃ち其本業たる刀劍業を廢し、爰に醫療器械製造販賣を専業とし、後本店を今の處に移し、家號を萬屋と稱し、益々業務を擴張し、三十一年九月十六日に至りて商號の登記をなせり。

明治十年西南の役以來、器械一般の需要益々多きに伴ひ、進んで歐米最上の製造品中の精良優等なる器械を輸入し、之を標本に採り、或は諸大家の考案に成る諸器械の製作をなすに當り一々其指導を仰ぐ等、力を盡せると一方ならず、且つ傍ら心を職工の養成に用ゐ、拮据研鑽したるの結果、製作上著しき發達を見て、終に完全無比の良器械を製出するに至りたり、明治十年博愛社即ち今の赤十字社の創設さるや、君は醫療器械其他一切の用途を命せられ、其聲價を高むるに至り、同十四年には醫科大學及び各官衙各病院の用途を命せられ、十八年には宮内省侍醫局及び陸海軍省の醫療器械一式の用途を命せられたり、同年石黒軍醫總監は君の家に與ふるに先利堂の號を以てしたり、蓋し他に先んじて人に利すると多きに採れるものならん亦た以て其効益を知るべきなり、二十年には和歌山縣立病院に同器械を寄附して木杯を受け、二十四年には宮城縣石巻病院に、二十八年には本郷學校に、三十年には戰役軍用品として、何れも同器械を寄附し、木杯を得たり、三十二年には東宮職御

勤 業 功 績 錄

勤 業 功 績 錄

料御水浴器械一式の御用を命せられ、三十四年には皇太子妃殿下御料埃國製產科器械及新案聽診機其他諸器械悉皆の御用を命せられたる等、皆以て同器械の精良を證するに足るべきなり。
 本邦に於て義手足及び身体矯正器等の製作をなしたるもの亦た君を以て嚆矢となす、今其沿革を原ぬるに、明治初年の夏、或る職工の下腿を切斷したるものあり、君其義足を製作するに當り、焦慮工夫を凝し、同年の秋に至り漸く製作を了れり、其構造は竹及鐵を以て成り、之を切斷せる足に裝用せしめたるも、如何せん不完全の點多くして、歩行運動意の如くならず、屢々改修を加へ、僅かに運用し得るに至りたりと雖も、未だ完成の域に至らず、當時一般の人々は義肢を以て單に外觀を裝ふものと見做し、之を實用に供するの事に至つては、毫も重きを置かざるものゝ如し、君大に之を遺憾とし、後年工業界の發達進歩に伴ふて、義肢が大に實用に供せらるゝものなるを思ひ、力めて之が改良を圖り、終に明治十四年に至り、歐洲よりして義手足の見本數種を輸入せしめ、彼我の異點を折衷し、日夜職工を奨勵して改良義手足數多を製作せしめたり、其原料は獸皮及び鋼鐵を以て作り、茲に大に義手足の本体を備ふるに至れり、依て大に世人の注目を惹き、需要者日を追て倍々増加し、二十年東京府工藝品共進會の開設に際し、義足一種を出陳して更に世の賞讃を博したり、左れを君は決して之を以て甘んぜず、二十二年再び歐洲より最新改良の

義手足を輸入せしめ、之を模範として更に邦人に適するものを製造せり、其構造は全部木材より成り、外部は肉色漆とし、内部は黒漆を以て塗り、關節及樞要の部分には鋼鐵を用ゐ、手先或は足先の如きは總て軟護謨を以てし、人体介保の器具として遺憾なからしめたり、此に至る迄の君の苦心は實に名狀すべからざるものありしも、竟に能く之を大成して技術上に著るしき進歩を來し、完全無缺の實用的義手足を製出するを得たるは、君の功勞として最も世人の謝せざるべからざる所たり、君は曾て明治十八年大隈伯遭難の時に當つて同伯の大腿部義足を製作し、二十四年尾濃大震災の慘事に負傷し、手足を切斷したる縣民數十人に對し、縣廳より下附の義手足は悉く君の製作する所たり、二十七八年日清戰役の際我陸海軍人軍屬より敵兵の捕虜に至る迄、其負傷兵に畏くも我が慈仁なる 皇后陛下より義手足恩賜の御沙汰あり、而して其製作は悉く君の擔任する所たりしなり、二十八九年臺灣征討に際し、負傷せし軍人軍屬に對し、更に 皇后陛下より義手足の恩賜あり、是又君の製作する所たり、三十二年北清事變に際し、我軍人軍屬及聯合軍外國負傷兵に對する御沙汰の時も亦た然り、三十五年一月中大慘事として世人の記憶に存せる、青森縣下田茂木野附近の第五聯隊軍人凍死者の内、僅かに生存せる數名の軍人が、四肢又は兩足を切斷したる時に際し、同じく恩賜の義手足は亦た悉く君の製作品たり、三十五年八月には日清戰役以來の義手足恩賜者に改修の恩命あり、陸軍省醫務局よ

り之が改修を君に命せられたり、其他官私鐵道の工夫、驛夫、諸鑛山の工夫、紡績職工等の負傷して局部を切斷したるもの、又は外人等に對し、君の製作したるもの數ふるに遑あらず、君が斯の如くにして、此憐むべき中途の不具者を救へること甚だ大なりと云ふべきなり。

君の眼鏡製造販賣業は、亦た明治初年に始むる處にして、而して又た外國製品の販賣は、明治二年君が歐洲に注文し、直ちに君の家に輸入したるものを以て、殆んど其嚆矢とす、爾來君は専ら斯業の擴張に力を盡し、近年各府縣下君の製品を販賣せざるもの殆んどなきに至れり、初め外國製の眼鏡は其輸入年を逐ふて増加し、内國の製品を壓倒せり、是れ畢竟我國の製法一に手工に依り、外國品に劣るが上に費用嵩めるが爲めなり、君大に之を憂ひ、自ら奮起して完全なるものを製作し、外品の輸入を遏めて國益を圖らんことを企て、焦心苦慮多年に及びたるが、明治十六年大學醫學部より眼科專修の爲め獨逸に留學したる、故醫學博士榎錦之丞氏の業成りて歸朝するあり、君乃ち之に就て全國の同製造業に就て質す所あり、先づ其紹介に依り、獨逸國ベツツプロール會社より玉の購入をなしたり、從來輸入の眼鏡は全体具備せるものゝみにして、玉のみの輸入は絶て無く、爲めに不便を感ずること尠からざりしに、君が此購入をなしてより、大に其不便を減ずるを得たるも、尙數多の種類中には往々需要に緩急ありて、全く不便を除去するに至らず、是に於て君は改良

眼鏡製造工場設立の急務なるを感じ、乃ち奮然一大工場を起し、日本に於ける眼鏡機械製造業の嚆矢たる朝倉松五郎氏の門人高林銀太郎氏を工場長とし、専ら斯業に研鑽し、夥多の星霜を兼ねて幾百回の試験をなし、巨多の資財を費し百難を排して竟に能く之が成功を遂げ、三十四年には待醫局御料眼鏡の御用を命せらるゝに至り一般の嗜好も之に傾ひて、能く輸入防止の初一念を貫徹したるのみならず、更に海外に輸出するの盛況をも見つゝあり、其功亦た豈表彰せずして可ならんや。

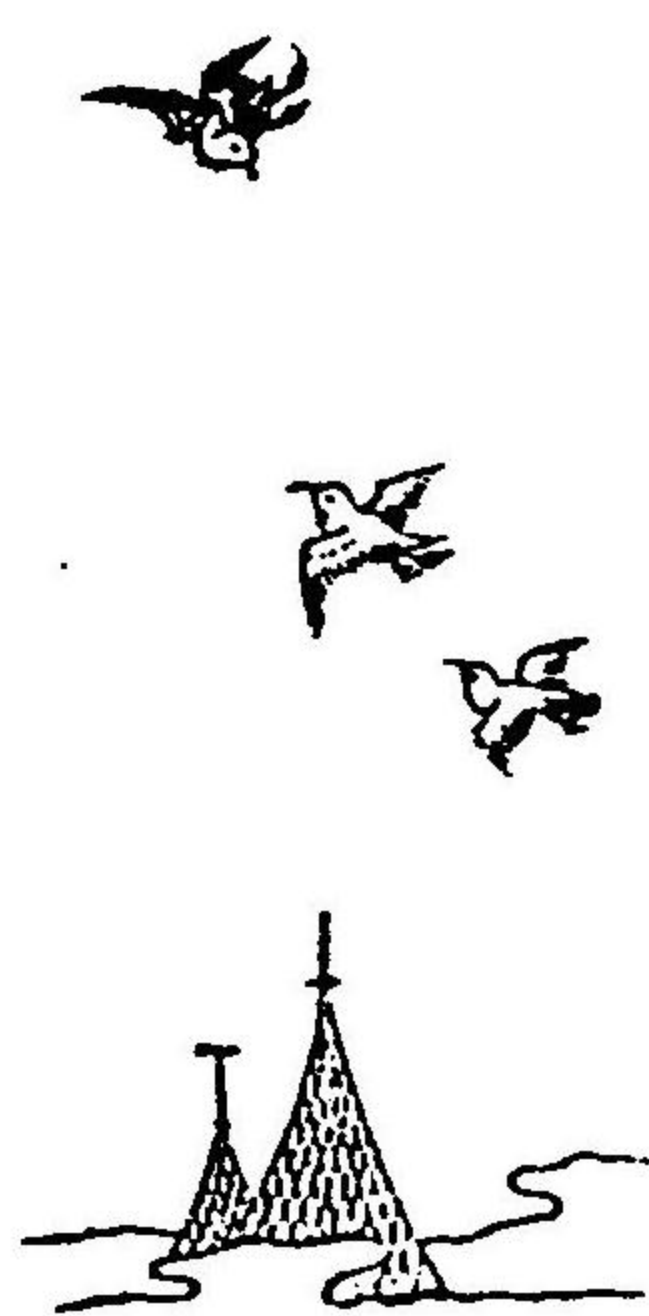
君の製品が從來各種の博覽會共進會等に於て受賞せること甚だ尠からず、即ち明治六年埃國維納大博覽會に於て賞状を受け、同十年第一回内國勸業博覽會に於て鳳紋賞牌を得、同十四年第二回同轉覽會に於て二等有功賞牌を授かり、同二十年東京府工藝品共進會に於て銀牌を領し二十三年第三回勸業博覽會には一等有功賞牌、二等賞牌、三等賞牌、賞状等を得、又た時事新報優等金牌を得たり、二十六年開龍世界博覽會に於ては有功一等賞牌を、二十八年第四回勸業博覽會に於ては一等有功賞牌、二等賞牌、三等賞牌、褒状等を、三十年第二回水産博覽會に於ては褒状を、三十六年露國第一回萬國服裝及附屬品大博覽會に於ては名譽金牌を受領し、今回第五回勸業博覽會に於ては、義手二點義足二點に對し實に名譽銀牌の重賞を得たり、其薦文に曰く

本人の出品に係る大腿部截斷用義足、膝關節以下截斷用義足、上膊部截斷用義手

勳 業 功 績 録

勳 業 功 績 録

前膊部截斷用義手、以上四點の義手足は關節の運轉自由にして構造の堅牢なるに拘らず重量少く肉色美麗にして漆塗を爲し頗る優等なる製作品とす
而して其他第九部に於ける二十二、第五部に於ける三十八の出品に對して、悉く二等賞、三等賞若くは褒状を受領したるなり、亦盛んなりと云ふべきなり。
君は毎月一回商工世界なる一雜誌を發刊し、不具者救済を以て任ずると同時に全國幾多機械工場主に改善を奨励し、又た各専門技術家の意見を推敲し、以て研究の資料となしつゝあり、蓋し有益の一雜誌にして、其社會を裨益する所尠からざるべきなり。



染革製造業 山上丑太郎君

(東京市日本橋區藥研堀町四番地)

三等賞牌受領

君は東京府下金町村の出生にして、明治八年初めて日本橋區通鹽町革商金田氏に就て、製革及販賣上の實習をなす、其間實に十二年、晨に起き夜に寝ねて敢て一日も異なることなく、専ら製革の方法、品質の鑑別及び内外の需要供給等に就て細心研究する處あり、深く斯業に就ての經驗を積むことを得たり、依て斯業を以て自己が終生の業務となすべきを決心し、明治二十年金田氏を辭し、日本橋區藥研堀町なる現住所に一戸を構へ、茲に獨力を以て染革製造販賣業を開始するに至りたり、當時本邦製革の業尙甚だ振はざるものあり、特に小牛革の如きは其用途甚だ熾んなるものあるに拘はらず、邦人の製革法に經驗を積めるものなく、只だ少數劣等なる需要を充たすに過ぎず、之に反して外國製の小牛革は染法甚だ良好にして、且つ水に觸るゝも柔軟の性質を失せざる等、長所甚だ尠からざるを以て、内地の需要一に外國品に傾き、其輸入年々倍蓰して殆んど底止する所を知らざるの有様なりしなり、君之を見て感慨措く能はず、乃ち自ら精良のものを製出して以て其需要に適せしめ、大

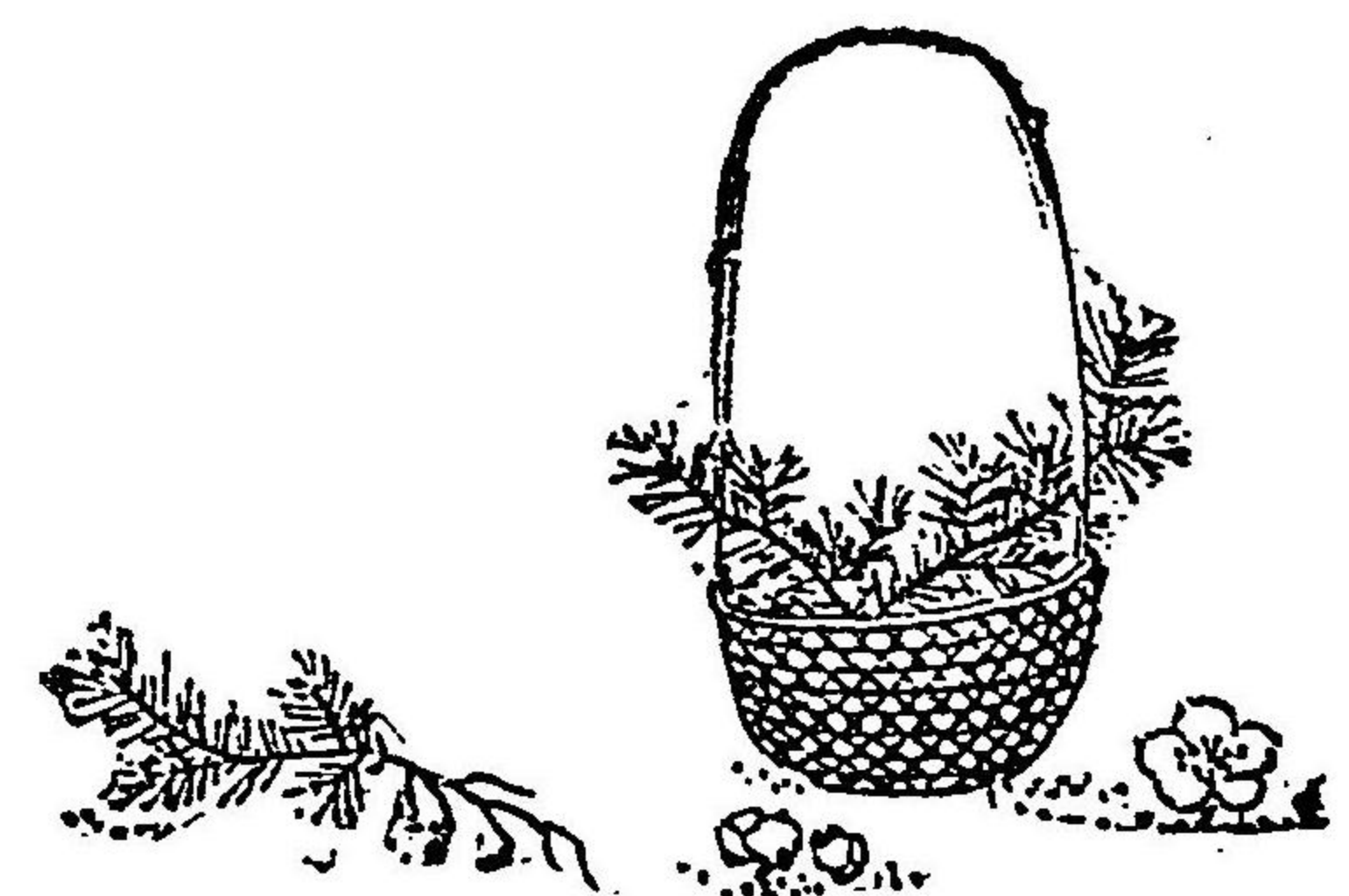
勤 業 功 績 録

勤 業 功 績 録

に外國の輸入を防止して國益に資する所あらんを欲し、殆んど寢食を廢して製法の改良に苦慮熟案する所あり、且つ職工の撰擇に最も心を用る、多年の研鑽を累して漸く精良のものを製出するに至り、之を外國品に比較して敢て遜色なきのみならず、反つて之に優る所のものありたるを以て、山上製小牛革の名は須臾に世人の注目する所となり、需用は一に之に傾ひて、大に輸入防遏の目的を達するを得、即ち外品跋扈の當時に比すれば、其輸入額僅かに三分の一に過ぎざるに至りたるは、一に君の功績として表彰せざるべからざる所なりとす、爾後東京、大坂等各地に於て、君に倣ひ同業を創むるもの勃興したりと雖も、邦製小牛革の精粹は一に君の製品に蒐まるの好運に際會して、君が積年の抱負茲に其大半を達することを得たるが、君尙之を以て甘んぜず、更に倍々精良のものを製し、全く輸入を杜絶すると同時に、大に海外の輸出を企て、以て國益に裨益する所あらんとし、愈々其研鑽の功を積みつゝあれば、必ずや近き將來に於て一層の見るべきものあらんなり、君又た斯業の年を逐ふて隆盛に赴くに從ひ、動もすれば粗製濫造の弊に陥るものあるを憂ひ、斯業の爲め將た一般同業者の爲め大に圖る所あり、即ち是等の弊害を匡正するの目的を以て、東京染革商協和會なるものを組織し、其會長に推されて専ら一般同業者の爲めに盡瘁しつゝあり、其績亦た甚だ尠からざるものあるを見る、君は今回第五回内國勸業博覽會に染革を出陳して三等賞を得たるが、蓋し其受賞の理由は製品良好に

して能く世の需用に適し、輸入の防止に効ある等の諸點にあるるべし。

録 績 功 業 勳



自動防火扉同
風窓等發明者

大野正君

(東京市京橋區南傳馬町二丁目六番地)

二等賞牌受領

日本政府特許第四八〇八號、同五七八九號、英國政府特許第二五三三八號、米國政府特許第七〇五六九號等の最大名譽を擔ひ、數回の實地試験に最良の結果を得て世界の學者社界に實用的有益の發明なりとの賞賛を博したるものを自動防火扉となす、而して此有益なる發明者は東京市京橋區南傳馬町大野商店主大野正君にして、君は新潟縣中頸城郡高田町の醫師、故大野氏般氏の次男、明治五年を以て同所に生る、本年實に三十二歳の少壯たり、夙に東京に出で、學業を修め、歸郷の後其兄と共に國産の織物業に従事し、高田織物會社なるものを設立し、其製品は之を横濱に送り海外に輸出するものにして、君之が爲めに常に京濱間を往復なし居たり、君資性最も器物の發明を好み、商談中尙且機械の話に耳を傾くるを常とし、繁忙なる商業の中に在て、種々の機械の考按を立て、現に特許を得て世に行はれ居る品も數種あれど、君は自動防火扉の外、敢て之を世に公けにするを好まず、爲めに其以外の發明を知るもの甚だ少しと云ふ、其名聲を求めざる斯の如し、其心事の廉なる歎す

録 績 功 業 勳

勤 業 功 績 録

べきにあらずや、今防火扉以外にして君の發明に係るもの一二を擧ぐれば、本年四月を以て特許を得たる人車行程測知器の如き、極めて有益なるものにして、由來我國の行通機關は各其賃金を定むるの規則あり、然るに獨り人力車に限り賃金一定せざるが爲め、乗客の不便尠からず、君之を遺憾として工夫を凝したるものにして其効用は此器械を附したる人力車に乗る時は、車輪の回轉數に依りて行程の町數又は賃金を示すの仕組なるが故に、乗車の際一々賃金の掛合を爲す煩を避け、時間を省くと同時に不當の賃金を食らるゝの虞なく、文明的の設備として極めて恰當のものたり、其他織物機械の或部分を改良したるもの二種、合せ鏡付自在鏡臺等皆極めて便利有益のものなりとす、而して其最も名聲の噴々たるは自働防火扉にして、此器は明治三十四年五月を以て考按を了り、同年八月十七日を以て特許を得たるものにして、其後英米兩國の特許を受け、更に昨三十五年十月二十二日を以て、前特許區域中臂壺の部分に修正を加へ、是亦た直ちに特許を得て、一層要部に完全を得たるものなりとす、是より先現品の製作成るや、東京帝國大學構内其他に於て、専門の學士新聞記者等立合ひ、實地試験を行ひたるに、何れも良好の結果を得たり、其證明書を擧ぐれば左の如し。

大野正氏の專賣許可に係る自働防火扉を東京帝國大學構内に於て試験したるに扉上の庇其他の木部は勿論紙張障子すら火災の痕跡を止めざるに扉は輕滑に閉鎖を完ふし得たり

勤 業 功 績 録

仍て自働閉鎖の點に於ては充分有效なるを確認す
防火の點に於ては試験すると能はざりしと雖も其構造に依り能く火災の侵入を防ぎ得べしと思料す

明治三十五年三月二十五日

- | | | | |
|---|----------------|--------------------|-------------------|
| 東京帝國大學教授、建築學主任 | 工學博士 | 中村達太郎 [㊦] | |
| 東京帝國大學建築學助教授 | 工學士 | 關野貞 [㊦] | |
| 文部技師、大學教室建築主任 | 工學士 | 山口孝古 [㊦] | |
| 文部技師 | 工學士 | 中條精一郎 [㊦] | |
| 文部技師 | 工學士 | 小野木孝治 [㊦] | |
| 大野正氏考按に係る自働防火扉の試験を去月二十三日東京府構内に施行せしに充分の成績を得たり蓋し該扉の構造たる甚だ簡單にして好く其目的を達するを以て防火上効力あるべきものと思料す | 東京帝國大學教授、東京府技師 | 工學博士 | 原龍太 [㊦] |
| | 三菱合資會社建築技師長 | 工學博士 | 曾福達藏 [㊦] |
| | 建築技師 | 工學士 | 葛西萬司 [㊦] |
| | 遞信技師 | 工學士 | 三橋四郎 [㊦] |
| | 東京府技師 | 工學士 | 中榮徹郎 [㊦] |
| | 三菱合資會社建築技師 | 工學士 | 保岡勝也 [㊦] |

昨臘深川鐵工所に於て大野氏の自働防火扉を試験せられたるを觀るに其成績良全にして

從來融解點低き金屬を利用して考案されたる防火扉中其作用の最巧妙なるを認む此の如き有益なる改良案の建築界に發現するは余等の大に歓迎する所なり

明治三十五年三月

三井合名會社建築技師長 工學士 横川 民輔[㊦]
三井合名會社建築技師 平野 菊造[㊦]

大野氏發明自働防火扉及び自働防火通風孔は下名に於て其構造を試驗を閱し防火上著しき效力あるものと認定す

明治三十五年三月

明治火災保險株式會社取締役 阿部 泰造[㊦]
東京火災保險株式會社取締役 長松 篤樂[㊦]
日本火災保險株式會社東京支店長支配人 葛目 成明[㊦]
横濱火災保險會社社長 富田 鐵之助[㊦]

同防火扉の構造は扉の全体を鐵にて造り、表面は總て鍊鐵を用ゐ、内部には砂を充填し、兩扉の接着部は喰合せを深くし、摩擦部には總て砲金を用ゐ、扉は臂壺の作用と自己の重力とに依りて閉鎖の自働力を有し、就中下扉は融金と稱するピスマスカドミユム及び他の二金屬の合金にて作りたる、攝氏六十度華氏百四十度に於て熔解する小環を以て繋ぎ留むるの仕組にして、此融金が火災の爲め、附近の空氣に温められ、攝氏六十度に達する時は直に熔解するを以て、下扉は自働して閉ぢ、從つ

勳 業 功 績 錄

て連桿は右方に移動し、下扉の略ぼ閉鎖し終りたる時、上扉は其重力に依り、自働して全く閉鎖し、同時に門を掛る趣向にして、又既に閉したる戸前を内より開くには、其上前扉の正中に在る把手を左轉して押せば容易に開扉し、其儘放置せば又元の如く閉鎖す、其他火災の際に當り、充分の餘裕ありて、豫め人手を以て之を閉鎖し置かんと欲せば、在來の扉の如く足場梯子等を要することなく、其内部の格子に掛け置く所の把手を藏の内より引く時は、環は下より挿嵌したるものなるを以て直に外れて鎖と共に垂下し、更に手数を要することなし、而して更に其効用の概略を擧ぐれば(一)充分耐火力を有し、如何なる猛火にも目塗などを要せず更に内部に燒込むの虞なく(二)構造堅牢にして銷付垂下等を生ずることなく(三)其取付取替等最も容易にして(四)價格は在來のものど略ぼ同じく、且つ修繕塗直し等を要せず耐久年限極めて長きを以て、在來のものより遙かに徳用なり、其他自働防火風窓は、印籠口になり居れる二枚以上の上げ蓋を眞鍮製の板にて一連となし、上げ蓋の常に自己の重量に依り閉鎖せんとしつゝあるを引き上げ、融金製の目釘に表蓋(唐草)の裏の鈎を懸け、其閉づるを支ふるものなりとす、故に平常は通風充分にして、随意に開閉をもなし得べく、火災の際は極めて低度の熱に依て、前述の融金目釘忽ち熔解し、上げ蓋は毫も人手を借らずして自働閉鎖し、充分火の侵入を防ぎ、又た銷付及び砂塵等の爲に具合を損するとなし、君は又た毎日必ず開閉すべき扉は比較上自働の効用少

きを以て、此需用に應ずる爲め、自働作用なき防火扉をも製作せるが、其構造効用等敢て自働防火扉と異なるなし、由來我國は火災多く、最近の統計に依るに、一ヶ年平均一萬四千八百八十七度餘の驚くべき多數に上れり、左れば人々競ふて巨額の費用を投じ、土藏煉瓦造の如きを建築し防火の備をなすと雖も、火災は常に意外の時意外の處より起り、事極めて急にして何れも狼狽し、折角の防備も其用をなさずして、僅かに身を以て免かるゝに過ぎず、甚だしきは焼死の慘狀をも呈するに至り一々土藏の窓、戸前、風窓等を閉鎖し、目塗をなす如きは極めて稀にして、忽ち什器珍寶を烏有に歸せしむるもの十の八九に及べり、近く八王子、青森、横濱、富山馬關、静岡、函館、長岡、直江津、高岡、秋田、七戸、新潟、若松、福井、敦賀等の大火の如き、其例擧げて數ふべからず、之が爲めに從來國寶を失ひ、國益を損じたるもの果して幾許ぞ、君の此大發明ありてより、人々初めて睡眠中も安心して財寶を藏するを得べく、愈々此扉にして全國に行渡るに於ては、終に一物も火災の爲め焼失さるゝものなきに至らん、君の國益に裨益する所豈亦た偉大ならずや、君が此器に就て最も名譽とする所は、昨三十五年五月二十五日 皇太子殿下北越御巡回の際、君兄弟の設立に係る高田織物會社内に、自働防火扉を裝置して、之が自働試験を殿下の上覽に供し奉りたるに殊の外御意に適はせられ、種々の御下問さへありたる趣にて、其後同縣知事より、之を 殿下の上覽に供し奉りたる記録を下附せ

られたり、君此光榮に辜負せざらんことを期し、爾來一層製作に勵精し、愈々本器を完全ならしむるに至りたり、同店の開業は昨年四月十二日にして、日尙は淺きにも拘はらず、忽ち世人の注目を惹き、現物を實見せんと欲して來集するもの非常に多く、店員日々之が爲めに忙殺されつゝあり、依て特約販賣を申込むもの既に二百名以上に達したるも、製品充分に間に合はず、爲めに今尙は之を謝絶し居れり、斯る有様なるを以て、君は益々其業務を擴張し、本年一月淺草區地方橋場百五十三番地に工場を新築し、目今盛んに製作しつゝあり、其販路は早くも東京、大坂、京都、神奈川、山梨、静岡、愛知、岐阜、兵庫、福岡、千葉、茨城、福島、宮城、青森、秋田、山形、長野、新潟、富山、石川、福井、北海道、其他の各府縣に涉り、注文更に絶ゆる時なし、以て其如何に世に歡迎せられつゝあるかを見るべし、斯る最大効益の發明品に對し、今回第五回内國勳業博覽會に於て、僅かに二等賞を與へたるは、世人の竊かに以て不足とする所なるべし、



唐木銘木琴三絃
和漢洋樂器商

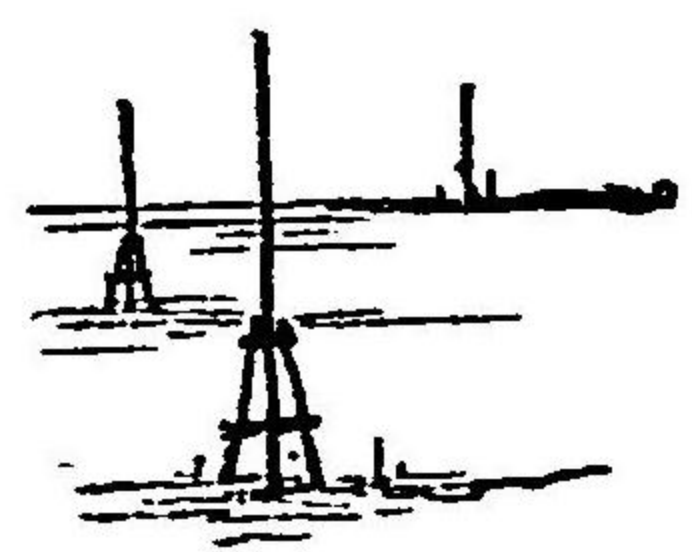
岡野勘兵衛君 家號木屋

(東京市日本橋區室町二丁目九番地)

二等賞牌受領

君の本家は木屋本店林九兵衛氏にして、十一代連綿として續ける所の舊家なるが、君は其分家として、是亦た君に至り三代を持續して、愈々家運の隆盛を來しつつあり、其の創業は安政二年にして、唐木、銘木、普請材木一切、琴、三絃、和漢洋樂器等を鬻ぎ、其品を精選し、其技を巧妙にし、専ら誠實を旨として、以て汎く世の需要に應せり、其店は中間幾多の變遷あり、幾多の盛衰ありたるも、能く其誠實と精巧とを以て終始一貫し、終に益々世の信用を博し、以て其營業の基礎を鞏ふするに至りたり、君資性温和にして、能く業務に忠實に、本年僅かに二十有五の壯齡を以てして、勵精敢て怠ることなく、能く巧を積み精を加へ、且つ時勢の進運に伴ふて其施設宜しきを誤らず、其老練なる年功者も及ばざる所のものあり、是を以て愈々聲名を揚げ信用を厚ふし、營業日に月に益々盛大なるに至れり、同店製造の樂器原料及び其販賣の木材等は日本内地の良材は勿論遠く之を支那、朝鮮、印度、臺灣、暹羅安南等に採り、良材名木殆んど一として蒐めざるなく、而して其需要地は東京

京都を第一とし、其他全国各地に及ぼし、又た海外は遠く米國にまで及ぼせるが、其始めて米國に輸出せるは、明治二十八年にして、爾來引續き唐木銘木等を同地に輸出して、最も其の好評を博しつつあり、其の賣高は内外を合して一年平均五万余圓に上りつつあるが、君は決して之を以て満足せず、益々其販路を擴ふし、特に海外輸出を盛んにして、大に國益の増進を企圖するの決心なりと云ふ、君年壯氣鋭、益々奮勵して撓む所なくんば、其將來の大成期して俟つべきなり、君は今回第五回内國勸業博覽會に樂器を出陳し、之に對して二等賞を得たるものなるが、其受賞の要點は、製作巧妙にして美術的に適ひ、音徵婉曲にして優なるものある等に依るものなりとす。



東京電氣株式會社

(東京市芝區三田四國町二番地)

一等賞牌受領

明治十九年藤岡工學博士始めて資本家に圖り、東京電燈會社を設立するに當り、將來本邦の電燈事業をして益々隆盛ならしめんには、必らずや白熱電燈製造業の之に伴ひ起らざるべからざるを確信し、一小製造所を設けて自ら之を監督し、明治十七年渡米の際米國エヂソン電球製造所に於て研究したるものと、同二十年渡英の際スオン電球製造會社に於て秘密研究したるものどに基きて諸機械を設備し、工學士三宅順祐氏をして其製造を擔當せしめたり、是れ實に本邦に於ける白熱電燈球製造の嚆矢となす、明治二十三年之を合資會社とし、白熱舎と名け、工場を京橋區南鍋町に設け、専ら其製造に従事したるが、當時同球は専ら供給を海外に仰ぎたるを以て不正なる外商等は粗製品を齎し一個金一圓乃至一圓五十錢の高價を以て賣買し大に暴利を貪りたるも此製造に遭ひ忽ち其價格を五十錢乃至七十錢に暴落せしむるに至り以て需要家に満足を與へ併せて財貨の流出を防ぎたるは、同舎の大功と云はざるべからず、斯くて電燈球の需要益々多く、外國品との競争漸く盛んにして、有志者

勳 業 功 績 錄

は同舎の小規模以て此難關に處する能はざるを看、相謀りて之を株式會社に改め、東京白熱電燈球製造株式會社と稱し、以て其業務を擴張したり、是れ明治二十九年四月にして、而して同社は三宅工學士を海外に派遣し、嶄新なる製造方法等の調査をなさしめ、其歸朝に及んで製造上大に改良する所あり、三十一年今の處に工場を新築し、從來使用せし瓦斯機關を廢し、更に適當の蒸氣機關、發電機及三宅工學士が米國に於て購入したるパツカード式排氣機、空氣壓搾機、水銀排氣機等を備へ大に面目を改めて精良品を製出し、平均一日二百個、一ヶ月六千個、一ヶ年七萬二千個の製作をなすに至れり、然るに時勢は尙進んで止まず、一層規模の擴張を要するに至り、乃ち其名稱を東京電氣株式會社と改め、最新式機械を増設し、愈々業務を擴張し、一日一千個以上一ヶ月二萬五千個、一ヶ年三十萬個を容易に製出し得るの準備を整頓したり、今其製造品の數量價格等を表示すれば左の如し

數 量	價 格	三十二年度	三十三年度	三十四年度	三十五年上半期
一三五、九三〇個	四七、五七六圓	一七一、一四七個	一四二、六九七個	八四、七三〇個	
			三七、一〇二圓	二一、一八三圓	

其販路は獨り内國の需要を充たすのみならず、更に多額の海外輸出を見るに至れり即ち内地は東京、大阪、横濱等各所の電燈會社、及び各鐵山、各紡績工場、軍艦船、鐵道等の需要を充たし、特に電燈業者間に重きを置かるゝ大阪電燈株式會社の

如きは、夙に其確實なるを信認し、其製作品を二府九縣に一手販賣せんことを特約し、其他數多の會社、商會等にして販賣特約を了し、又は目下協議中のものも少からず、又た外國に在つては、盛んにマニラ、新嘉坡、魯國、濠洲、支那、朝鮮等に輸出しつゝあり、同社は今の處に本工場及び機關室を有する外、府下南品川に材料の一部分なる硝子製造場を設けあり、同社の目的とする所は白熱電燈球及電氣機械器具製造販賣及び電氣工事の設計受負にして、其製造品の原料は、炭素線、白金ニツケル硝子及び口金なるが、炭素線は市場に在る普通綿花を精製して之を造り、白金及ニツケル線等は英國倫敦より輸入し、硝子は美濃産醇良石粉と英國曹達及び市場に在る普通石灰を以て之を製し、口金は大阪製コーペル板を以て之を製す、右の如く同社は萬已むを得ざるものゝ外國品を用ゐず、殆んど内國品を以て之に充つるが故に、其國益に資するとも亦一層大なりとす、而して其製作の方法は元來外國の發明に係るものにして、發明者は專賣特許を有し、其製作方法を秘密になし居れば、之を傳習するに實に難事なりしも、藤岡博士、三宅學士が、歐米各國に於て調査研究、たるものに基き、更に同社に於て刻苦經營、審覆研究の上、改良したるものなれば、其最初の困難は實に名狀すべからざるものありたるも、能く之を完成するを得て、今や優に外國品を凌駕するに至りたるは最も同社の名譽として表彰すべき所なるべし、特に其綿花糸製作の方法を種々研究の後、發明し、從來使用せし糸竹を廢し、綿

花糸を使用するに至りたるが如き、炭素型を考案したるが如き、炭素線精製用藥品を改良したるが如き、從來炭素糊を用ゐたる繼續方法を電氣繼續方法に改めたるが如き、硝子封入作業を改良せしが如き、排氣補助薬を使用するに至りたるが如き、硝子球に商標ゾオルト燭力の焼付用藥品及其方法を發明せしが如き、最も著しき事實なりとす、今日同社が能く外國品を凌駕し、其輸入を防遏して更に輸出を見るに至れるもの實に此等諸般改良の結果に外ならざるを知るべし、而して更に特筆大書すべきは藤岡式電燈球の發明なりとす、從來の電燈は其光力を加減し能はざるの缺點あり、我國は勿論歐米各國に於ても夙に之を遺憾とする處なりしが、藤岡工學博士種々の考究實驗を費し、遂に電燈にも光力の加減をなし得るとし、以て全世界未だ曾てあらざるの大發明を遂げたり、即ち改良白熱電燈是なり、此燈は第二三六六號を以て、明治二十七年十月十九日より、向ふ十五ヶ年間專賣特許の榮を荷へるものにして、而して其構造は燈球内二條の炭線を備へ、開閉器の把手を一轉すれば、其燈球の全光力即ち十燭力乃至十六燭力の光輝を發し、更に一轉すれば忽ち燭力を減じて僅かに一燭力乃至半燭力の燈光となり、恰かも我國在來の行燈火の光力となり、而して更に一轉すれば滅火するを得、左れば寢室内、事務室、讀書室、土藏内、旅宿、下宿屋、料理店、待合等より、病院其他に至るまで、此燈を用ゆるを最も便宜にして、且つ電燈にメートルを用ゆるものに對しては極めて利益あり、

左れば此燈一たび發明せられてより、忽ち他燈を風靡するの勢を示せり、今後の勢力知るべきなり、尙ほ數え來れば同社の電燈球が需要者に與ふるの便宜と利益とは殆んど數ふるに遑わらず、詳細は同社のカタログ等に就て見るべきなり、今試みに本邦に於て使用せる電燈球の需用高を見るに、一ヶ年實に百五十萬個の多きに達す、而して其内五分の三半は外國輸入品に屬し、五分の一は實に同社の製品にして、殘餘の五分の〇半は他四五の小會社製なりとす、左れば球燈一個の代價を平均三十錢と見積り、總代價四十五萬圓の内九萬圓は慥かに同社の手に成れるものにして、其國益に資する決して尠少にあらざるを見るなり、而して同社は決して之を以て甘んぜず、近き將來に於て少くも六十萬個の製造をなし、品質を善良にして飽迄外國品の輸入を防ぐと同時に、同社の特技を外國の斯業界に傾注せんと、大に畫策する所のものありと云ふ、其勞誠に多とすべきなり、同社現今の資本金は十五萬圓にして悉皆拂込濟となり居り、而して其重役は左の諸氏なりと云ふ

社長田村英二、取締役藤田市助、同長富直三、監査役立川勇次郎、川崎芳之助、技師長兼幹事新莊吉生

勸業功績録第一編終

附言

一本書は凡例にも記せる如く勸業上の功績を録せるの書なり、即ち第五回内國勸業博覽會に於て受賞せる人々の名譽と功績を永遠不朽に傳ふるの書なり、既に其名譽功績を録せんとす、一字一句も之を苟くもすべからざるは言ふ迄もなし、是を以て編者は筆硯を携へて一々其人を訪ひ、以て聞き以て糺し而して後に其事歴を編み、尙事の疑はしきものは之を農商務省に糺し、之を興信所に聞き、之を其人の在籍役所に問ひ、之を其人の友人知己に尋ねて訂正せるものなれば、編者の苦心は實に想像以外のものあると同時に、其毫末の誤謬なきは斷言して憚らざる處なり。

一編者は一に受賞者の名譽功績を表彰し、併せて勸業上の一大史料を作らんが爲めに、誠心誠意を以て之に従事しつゝあるにも拘はらず、受賞者中往々其意志を誤解するものあり、或ひは冷語を以て之を迎へ、或は甘辭を以て之を避け、編者の足を勞するに數十回にして尙且要領を得ざるものあり、即ち一等賞受領者たる菓子商壺屋事藤田武次郎君の如きは、之を訪ふと前後實に五十七回常に甘言を以て迎へ、而して終に其要領を得ず、其間當局者に就き、區役所に就き、其友人に就き、其番頭に就き、聞く所糺す所悉く相違して甚だ曖昧なり、而かも之を綜合して得たる所の事歴は其人の功績にあらざりて反つて恥辱なり、本書は功績録なり恥辱録にあらず、何ぞ之を掲ぐるに忍びんや、乃ち百十四時間を費して得たるの事歴一朝にして之を省くの已むなきに至りたり、斯の如きの事例尙他に尠きにあらず、特に藤田君を以て其甚しきものとすのみ、是等は慥かに本書が勸業上の意義を没却するのみならず、反つて本書の發行に妨害を與ふるものたり、編者斷じて之を採らず。

一 又た夥多の受賞者中には其實與を不足とし審査官を恨めるものも尠からず、是等の人々は本書に其事歴を掲げらるゝを反つて恥辱なりとし、之を謝絶せるも尠からず、是も亦た誤解の甚しきものと云はざるべからず、審査官神に非ざれば時に其實の當らざるもの必ず無しとは斷言すべからざるも、其多くの場合に於て審査官の眼は公平なり確實なりと認めざるべからず、即ち其不平の起る所以は望む所其實蹟よりも多きものあるに依るものにして、薄賞なりとて之を喋々するは反つて其人の恥辱を表はすものたらざるべからず、若し又た眞に其實與其實蹟に及ばざるものあらば之を社會に訴へて更に其眞價を定むるも亦可ならずや、此點に於て本書は最も公平確實に其人の事歴成績、其製品の實效等を詳述し、以て最後の審判官たるを誓ふものなれば、受賞者之を拒むの理由は、編者殆んど之を發見する能はざるなり。

一 又た多くの受賞者中には編者の意志を廣告募集かの如くに誤解し、事歴を載すも更に營業上に効を見ずとして之を謝絶するもあり、是亦た利のみ走つて勸業上の意義を没却するものにして、編者の意志に悖ると最も甚しきものたり、思ふに是等の誤解者に對しては敢て之を辨解する迄もなく人皆其誤りを知らん故に編者は只だ名譽功績を不朽に傳ふると、一時の顧客を求むる營利的廣告とは全く別物なるを明かにするに止めんのみ。

一 以上述ぶる所は悉く本書の進行に障礙を與ふるもの、次編以下乞ふ幸ひに是等の誤解なく、以て此大出版物を完成せしめんことを切に望んで已まざるなり。

吞 歐 木 下 敬 正

明治三十六年八月三十日印刷
明治三十六年九月二十日發行

正價金壹圓

編纂者 木 下 敬 正
東京市麻布區永坂町四十二番地

發行人 兼印刷人

河 野

東京市牛込區
教育義會
青 年 教 育 義 會

發行所

青 年

印刷所

明

東京市京橋區三十間堀二丁目一番地

不 許 複 製 及 轉 載

發 賣 元

東京市麻布區永坂町四十二番地

忠 愛 新 聞 社

勸業功績録第二編豫約募集廣告

本書第一編は早卒の間に印刷に附したるを以て尙全く編者の意に満たざるもの
あるも第二編以下は更に**其体裁を整へ其紙数を増し**其他百般の
事改善を加へて益々**完全無缺**のものたるを期す其如何に面目を一新するか
は乞ふ之を出版の上に見られんことを、尙其大改善を施すに就ては從來の代價を
以てしては費額の之を許さざるものあるを以て第二編以下の代價を改正するを
左の如し

本書定價一部金一圓三十錢、豫約價金一圓

本書掲載寫眞版料四分の一頁金四圓、半頁金七圓、全頁金拾圓
廣告料一頁金拾圓、半頁金六圓五十錢

本書第二編豫約申込期限は來十月十五日迄、こし期限後は一切定價に
復す

豫約申込所

青年教育義會
忠愛新聞社



青年教育義會
忠愛新聞社

名譽銀牌



東京銀座
千葉商店

勸業功績録第二編豫約募集廣告

本書第一編は早卒の間に印刷に附したるを以て尙全く編者の意に満たざるもの
あるも第二編以下は更に其体裁を整へ其紙数を増し其他百般の
事改善を加へて益々**完全無缺**のものたるを期す其如何に面目を一新するか
は乞ふ之を出版の上に見られんを、尙其大改善を施すに就ては従來の代價を
以てしては費額の之を許さざるものあるを以て第二編以下の代價を改正するに
左の如し

本書定價一部金一圓三十錢、豫約價金一圓

本書掲載寫眞版料四分の一頁金四圓、半頁金七圓、全頁金拾圓
廣告料一頁金拾圓、半頁金六圓五十錢

本書第二編豫約申込期限は來十月十五日迄、こし期限後は一切定價に
復す

豫約申込所

青年教育義會
忠愛新聞社

第五回國內勸業博覽會

名譽銀牌 受領

風月堂	風月堂	風月堂	風月堂	風月堂	風月堂	風月堂	風月堂	風月堂	風月堂
東京市神田區淡路町	東京市神田區飯倉四丁目	東京市神田區今川小路二丁目	東京市高麗橋通三丁目	東京市日本橋區兩國若松町	東京市日本橋區南鍋町	東京市日本橋區南鍋町	東京市日本橋區南鍋町	東京市日本橋區南鍋町	東京市日本橋區南鍋町
米津支店	米津支店	米津支店	米津支店	米津支店	米津支店	米津支店	米津支店	米津支店	米津支店
積峰三郎	澤康太郎	伊直吉	鹽谷五郎	米津武三郎	米津松造	米津恒次郎	米津恒次郎	米津恒次郎	米津恒次郎
(電話本局二一八八)	(電話新橋一〇三六)	(電話本局八〇九)	(電話東五九二)	(電話浪花五一八)	(電話二〇八)	(電話新橋三〇三)	(電話新橋三〇三)	(電話新橋三〇三)	(電話新橋三〇三)
吉川市三	七澤三右衛門	原田千太郎	鈴木敬助	吉川市三	吉川市三	吉川市三	吉川市三	吉川市三	吉川市三

第五回國內勸業博覽會

賜壹等銀牌

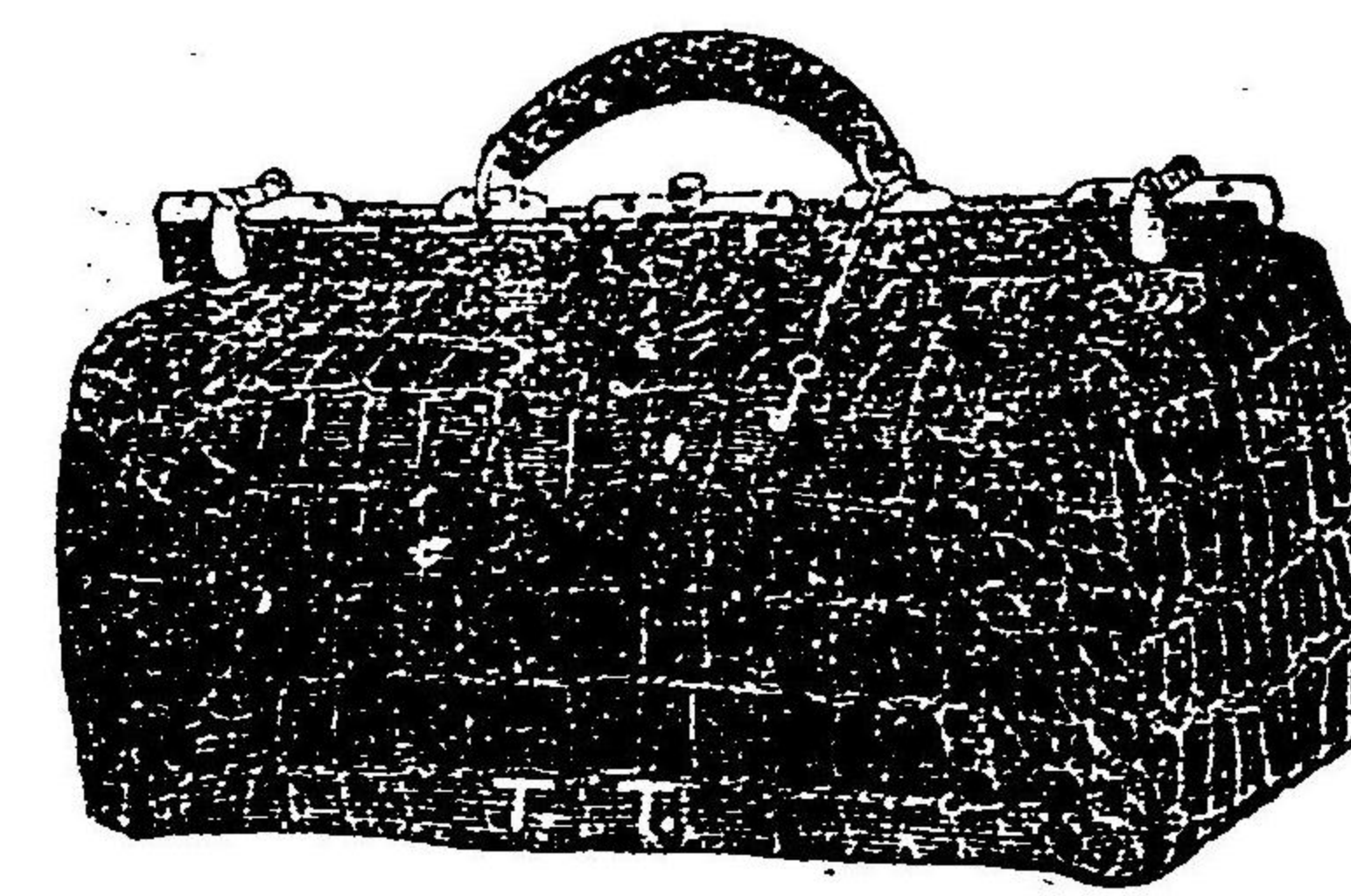
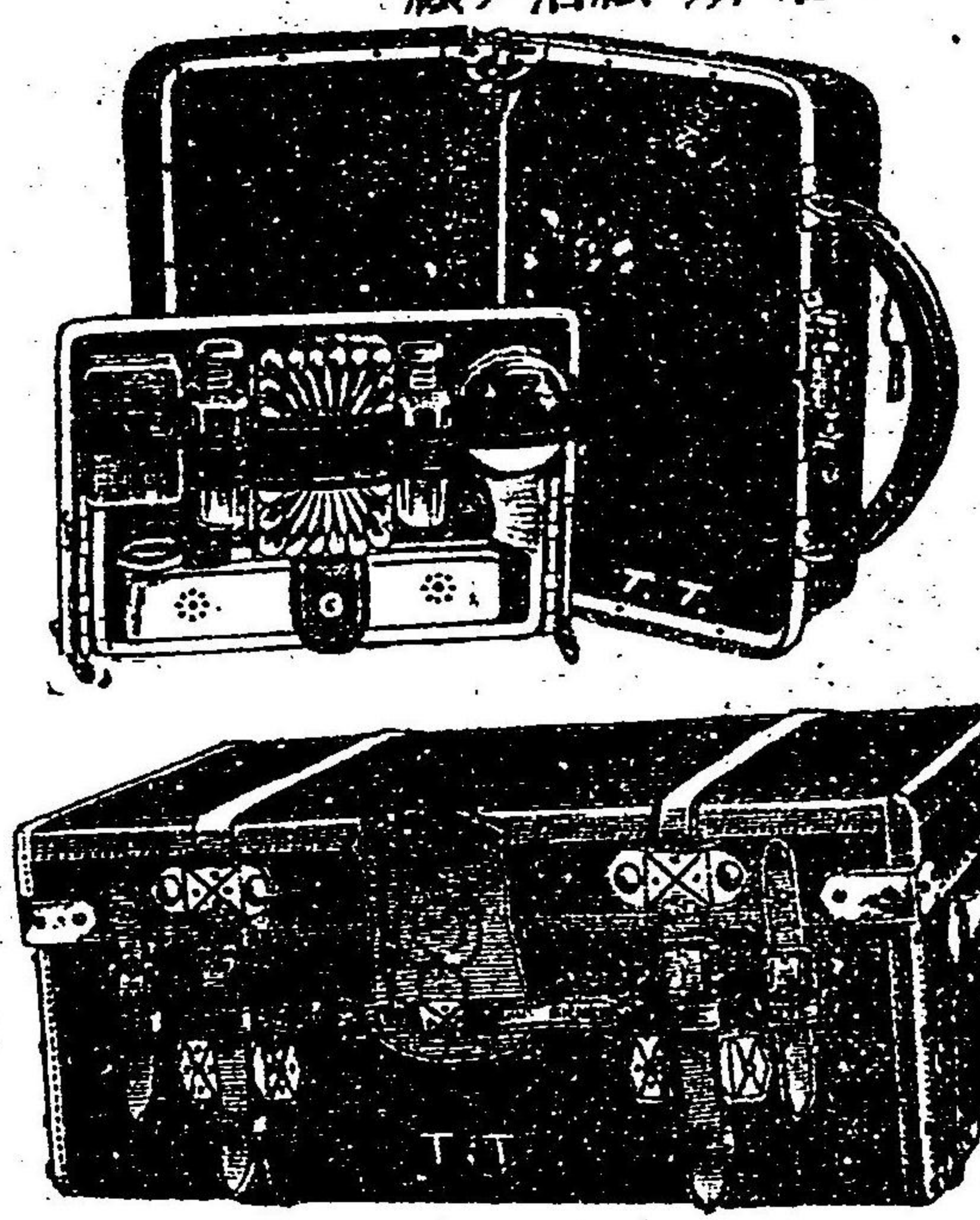
●谷澤製カバンの名譽
 幾多靴ノ出品中壹等銀牌ヲ拜受セシハ全國各
 同業者中獨リ弊店靴ノミズ
 ク比類ナキ優秀ノ大榮譽ヲ忝フセシハ御愛顧
 花君ノ賜物ナリ由來世ノ好評ヲ博シタル弊店
 製靴ハ優ニ我國第一位ノ製靴ト認識セラレタ
 リ依テ益々斯業ニ奮勵仕候間何卒倍舊御愛顧
 ノ程伏テ奉懇願候

●進歩一等賞受領
 前數回ノ大博覽會ニ於テ

●有功二等賞受領
 內外旅行用靴各種旅行用品其他ノカバン流行
 新形いろ／＼化粧道具數品
 製作ニ就テハ卅年來ノ
 弊店ノ靴創業ハ明治七年ニアリ
 驗ニ富ミ堅美實用ヲ貴ミ獨特ノ妙手アリ
 優等品數千種整備ス價格ハ尤モ至廉ナリ
 東京市京橋區銀座壹丁目四番地

●高等靴製作販賣
 商品價格表御入用
 ナレバ郵券貳錢

同 谷澤支店
 同 谷澤靴商店
 (電話新橋八百五十九番)
 壹丁目八番地東側



廣告

廣告

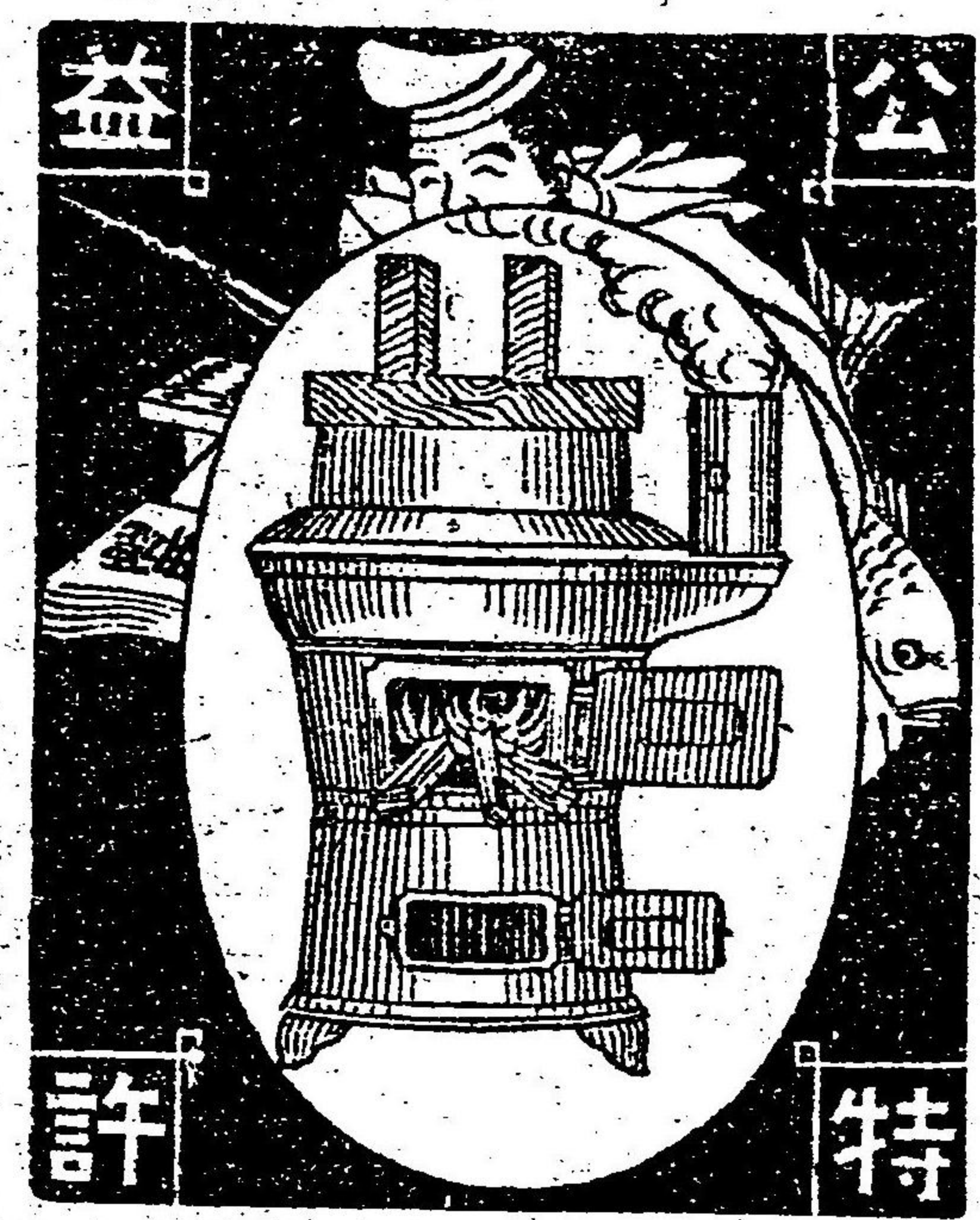
●石炭薪ホークス炭。雜木焚得る舊式竈に比ぶれば五割餘の日益あり

公益

於第五回國內勸業博覽會
三等賞牌受領

梅田竈

特許



- 壹升五合器……貳圓七拾錢
- 貳升器……參圓五拾錢
- 參升器……四圓五拾錢
- 四升器……五圓貳拾錢
- 五升器……六圓五拾錢
- 六升器……七圓貳拾錢
- 八升器……九圓
- 壹斗器……拾貳圓
- 壹斗五升器……拾五圓

●(保險附)煙戻らず家屋の器具燻らす(御試用)以内元價買戻を約す

薪炭の代用品



非常の經濟品

市内燃料唯一

採掘發賣元

東京京橋區築地二丁目
電話新橋一四八番

茨城無煙炭礦株式會社

茨城無煙炭は普通石炭の如く煤烟なく諸工場、湯屋、牛乳屋、菓子屋、蕎麥屋、ストーブ、臺所用等に用ひて薪代の半價上手につかへば三分の一是れを風呂焚に用ゆるときは五錢の無烟炭にて十人は入浴出来る一人の湯錢たつた五厘又焚落は堅炭の代用となり火鉢七輪等に用ひて最も經濟なり
御注文次第何程にても御届致します

吉 沼



17 銀側兩蓋形	18 米國製形	御銀側人兩持蓋	十八金兩蓋形	御婦人持蓋
甲二十五圓	乙二十圓	丙二十圓	丁二十圓	戊二十圓
付廿二金彫刻指環	付廿二金印面指環	十八金製指環	銀綠眼鏡	十四金鏡
甲二十五圓	乙二十圓	丙二十圓	丁二十圓	戊二十圓

東京市京橋區南傳馬町三丁目(京橋橋際) 吉沼時計店

無煙炭販賣商組合 (同不序順)

京橋區本港町十九番地 (電新六二四) 井手米吉	京橋區本港町六番地 渡邊政太郎	京橋區大川端町七番地 加藤孝次郎	京橋區南小田原町二丁目十二番地 武井嘉七	京橋區豐島町四丁目十三番地 (電新二四六) 高間惣七	京橋區築地二丁目卅番地 (電新二五九) 小山定次郎	京橋區入舟町新富河岸三號地 阪井屋鶴岡喜太郎	京橋區越前堀二丁目十番地 加納惠太郎	京橋區南小田原町二丁目九番地 山口屋大長五百吉	京橋區南新堀町二丁目十一番地 (電新九五四) 德岡祐三郎	京橋區南八丁堀二丁目八番地 (電新一九〇) 白水元次郎	京橋區高代町一番地 池田鎌太郎	京橋區日比谷町六番地 (電新六一四) 伊藤藤吉	京橋區本八丁堀三丁目二番地 (電新三四七) 淺沼安太郎	京橋區新港町四丁目一番地 (電新一八九) 松本三郎	京橋區金六町九番地 福島鴻三	京橋區南八丁堀二丁目十四番地 惠比壽商店
日本橋區小網仲町二番地 金子三郎	日本橋區新本町四番地 三原庄兵衛	日本橋區通三丁目五番地 長岡源藏	日本橋區本木町一丁目 川岸四十二號地 金森丁五郎	日本橋區中洲河原町二號地 (電新二五四) 藤田盛太郎	日本橋區上橫町四番地 (電本三一六) 寺島彌策	神田區松住町一番地 野田屋柿沼善九郎	深川區松村町廿五番地 深川區富岡門前町四十二番地 (電新一四三八) 石井三太郎	深川區常盤町二丁目七番地 北豊島郡王子村王子停車場貨物卸場 福井屋支店 白水元次郎	下谷區下根岸町卅六番地 (電下二〇二) 清水留吉	麹町區飯田川岸八番地 麹町區飯田町二丁目三十一番地 麹町區飯田町三丁目三十一番地 麹町區飯田河原十三號地 尾三吉	四谷區麹町三丁目十八番地 合資會社誠交	四谷區東區南傳馬町三丁目(京橋橋際) 吉沼時計店	四谷區東區南傳馬町三丁目(京橋橋際) 吉沼時計店	四谷區東區南傳馬町三丁目(京橋橋際) 吉沼時計店	四谷區東區南傳馬町三丁目(京橋橋際) 吉沼時計店	四谷區東區南傳馬町三丁目(京橋橋際) 吉沼時計店

於第五回國內勸業博覽會 領受牌賞等貳

Ishizeki & Co,
Manufacturers of and Dealers, in Cabinets,
Whatnots, Tables and Various, Household,
Furnitures, and Art Wooden Wares.
Minamidemacho Sanchome, Kyobashi-ku, Tokyo, Japan.



は積信圖地積出文し御應他鉢○書
切用御方りて等物のじ彫○書
堅御送御御仕等物のじ彫○書
固御反附注御書仕前品持節製調刻煙
に御か被文の呈を同持參は製製製草
可通か被文の呈を同持參は製製製草
仕致設計圖案及實直御略
造及實直御略
造及實直御略

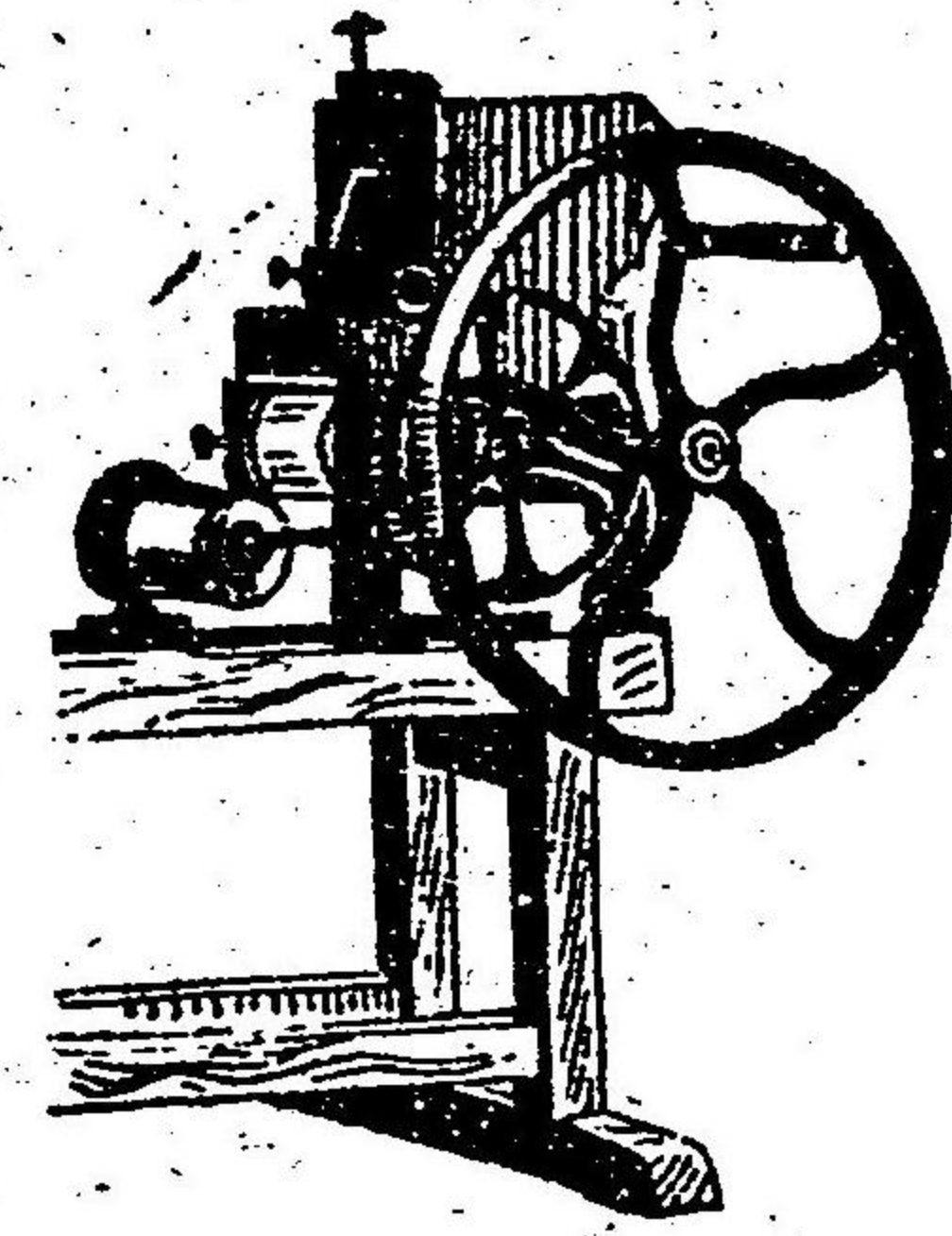
營業製造品概目録



該廿製造荷 錢五川圓六金價定脚壹

東京市京橋區南傳馬町三丁目 石關商會本店
電話本局四一八番
東京市神田區表神保町 石關商會支店
電話本局二四八番
同市芝區公園勸工會社陳列場 石關商會出張店
電話新橋一四五三番
同市下谷上野公園商品陳列館 石關商會出張店
電話本局三三〇番
同市京橋區新橋竹川町商榮館 石關商會出張店
電話新橋七五一番

於第五回國內勸業博覽會 領受牌銀賞等壹



專賣特許 製造機械

- 本機は最近の專賣特許にして使用最も簡便なる機械なり
- 本機は一日三百貫以上の温飽素麵を製出する機械なり
- 本機は堅牢無比にして破損の患なき機械なり
- 本機は圓形角形の麵類を各好む所に依り製出するを得る機械なり
- 本機は麥粉と塩水混和物を其儘婦人帶様に連續せしむ種類は甲乙丙丁戊の五種あり
- 御望の御方は御一報次第定價表及圖解説明書を進呈す

佐賀縣佐賀郡巨勢村字牛島 鐵工場
東京市淺草區駒形町十二番地 麵販賣支店
眞崎製麵機販賣支店
大坂市北區曾根崎二千八百十三番屋敷 麵販賣支店
眞崎製麵機販賣支店
北海道札幌 幌 (支店開設中)

會覽博業勸國內回五第於

牌賞等壹

領受

弊舖ハ陸海軍將校警察官方御佩用刀劍及御携帶諸器具御正服御軍服裝飾品馬具等ヲ調進致ス事玆ニ三十ヶ年御蔭ヲ以テ日ニ増シ繁盛致候段奉佩謝候然ルニ近來諸物品御需用之増加ニ隨ヒ製造販賣者ヲ増加シ從テ同業者ハ啻ニ價格ノ低廉而已ヲ競爭致ス事ト相成其極材料ノ良否ヲ撰マス製法ヲ簡易ニナスノ不得止事ト相成依テ御使用上毀損致シ易キ品モ有之哉ニ承知仕候就テハ今後弊舖ニ於テハ一層材料ノ最良ナルヲ撰ミ製法等ハ堅牢ヲ旨トシ保存上ニ注意致シタル物品ヲ製造甲種トシテ調進可仕若シ甲種ノ物品ニシテ故ナク毀損致候節ハ無料ニテ修理上納可仕ニ付何卒倍舊御眷顧之程偏ニ奉願候追テ代價表御入用ノ節ハ御一報次第御送り可申上候敬白

(宮内省陸海軍省軍用器具用達火藥類免許商)

本店壽屋 小松崎茂助

(電話新橋一五五六)

東京市芝區露月町拾九番地

(電話番町三四七)

四ッ谷麴町十三丁目十三番地

支店 支店 相州横須賀町字元町二番地

會覽博業勸國內回五第於

領受牌賞等二

賜下狀褒テ於ニ會覽博業勸國內回三第
領受牌賞テ於ニ會覽博國萬龍閣國米
賜下賞功有テ於ニ會覽博業勸國內回四第

筒箒機器科齒◆臺療治用科齒

々品等具飾裝內室風洋に并品屬附用科齒他其

如上の治療臺及器械箒筒の製造に就ては不肖唯造 東洋の元

祖にして我國該術の創始より之に従事すると十數年其間苦心改良を

加え茲に主要の便器を完成するに至り常に齒科諸大家の賞賛を蒙り日

に月に隆盛に赴き先年は長くも 皇后陛下の御用を命せら

るゝの光榮を得たり加之上記の博覽會に出品の都度褒賞を授與せらる

ゝに至りしは是全く實用的無比の良品たること一は諸大家の御引立に由

るところと思考仕候今や内國は勿論海外に輸出するの盛大に至り爾來一層

品質を選び堅牢に精巧に時日を違へず且廉價に製作仕候上は倍舊御愛

顧の上陸續御注文の程伏而奉願上候也

東京芝區南佐久間町壹丁目壹番地

齒科用器具并
室内裝飾品商

若林唯造

會覽博業勸國內回五第於

領受牌銀賞等二

標商錄登



當會社のゴム真田ハ六コルより世ニコルに至る平打其他
丸打等ニ數種あり

當會社のゴム真田ハ舶來品より優等廉價なり
當會社のゴム真田ハ色合幅負伸縮等御注文
應じて調製す

當會社ハ羽織紐帶止時計紐ナナキ紐
前掛紐、蚊帳紐、巾着紐、靴紐、靴紐、
綴心紐、測量紐、洋蠟心、電線
上打、下打、下打、其外洋装
附屬品等紐類一切製
造御需用ニ應ず

地番七町油通區橋本日本市京東
番四七二番話電(特)

社會式株紐製

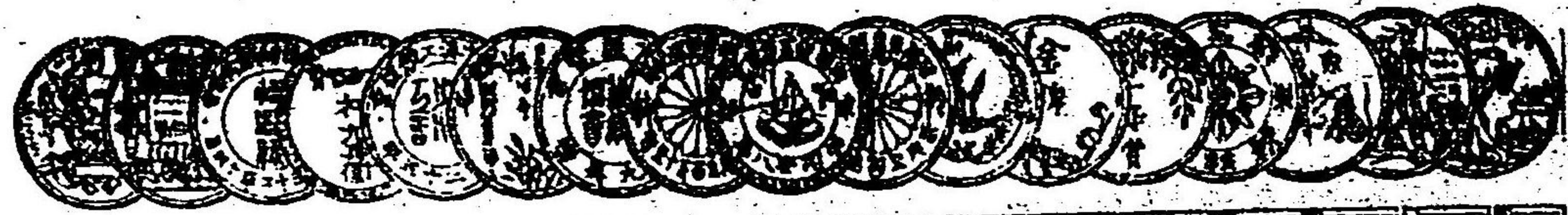
入西區橋月丁二町物産區東市橋本

所張出廠大社會式株紐製

會覽博業勸國內回五第於

牌賞等壹

領受



美術 漆器 刷洗道具

漆器

蔭繪 漆器 刷洗道具

御覽多し不拍
御用向被仰付存偏
奉希上履教目

東京市日本橋區
室町貳丁目

本屋本店

林九兵衛

電話本局(九百九十九番)
電話略名(牛九)

廣 告

十三

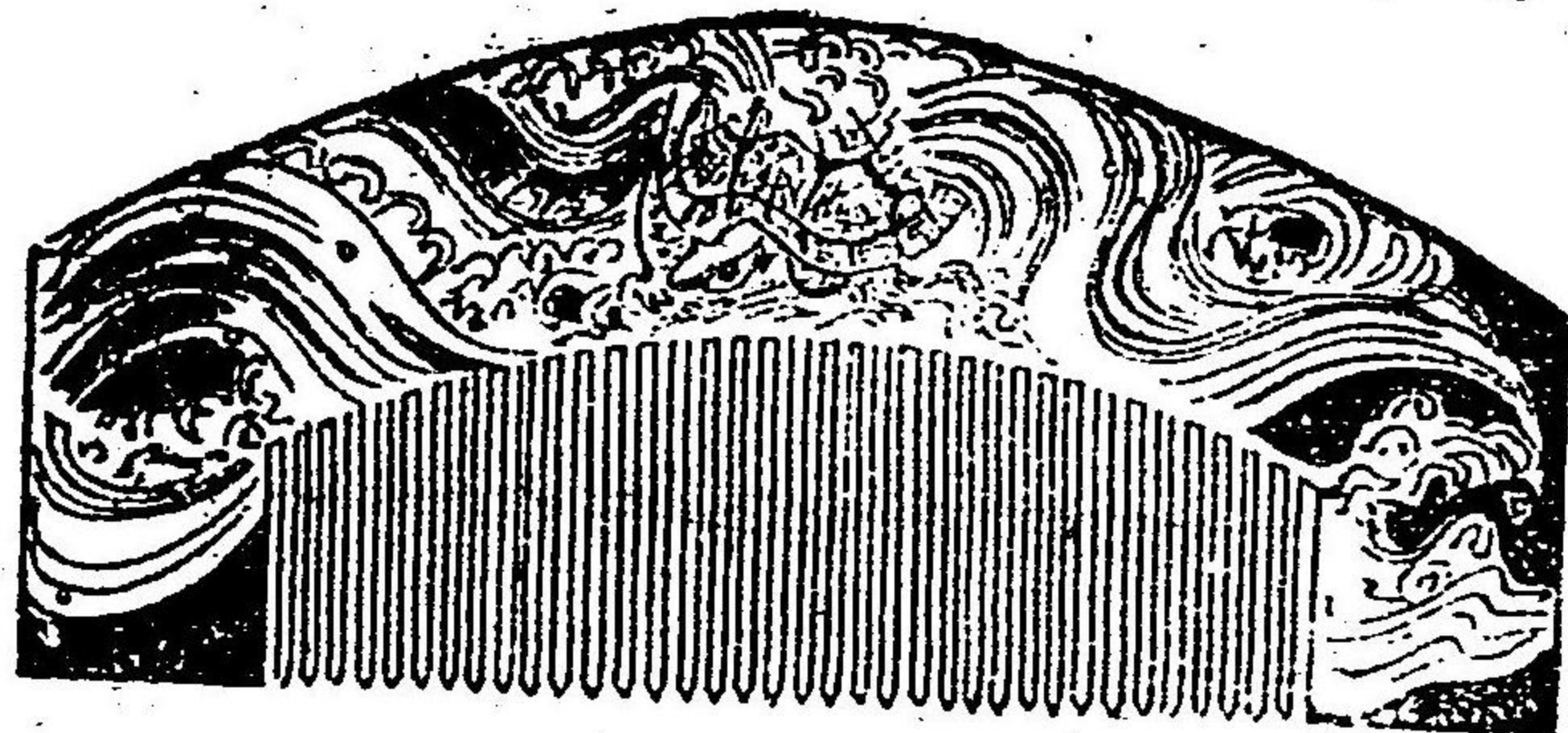
廣 告

十二

於第五回國內勸業博覽會
三等賞牌受領

第二回水産博覽會於此有功三等賞受領
 外共進會於此褒狀受領

美術蒔繪櫛等



本品ハ高尚ナル半京形妻形等へ總金地研出シ黒地へ芝山等ノ地合ニ製シ山水花鳥又ハ古代模様等蒔繪生込芝山等ヲナセシ製品ナルガ故ニ優美ニシテ高尚ナリ且永年ノ御用ニタヘ得ル品ニ有之候
 一揃ノ價甲價

五圓以上三圓高五拾圓迄

乙價

三圓以上五十錢高五圓迄

但シ櫛壹枚ノ價ハ半額

東京市京橋區南傳馬町三丁目七番地

⊕ 奥田商店

賜二等賞牌

第五回內國勸業博覽會

雉子印鉛筆の名譽

幾多鉛筆出品中他に比類なき卓越の賞典を得且つ宮内省御用品の恩命を蒙りたるは獨り弊店の雉子印鉛筆のみ此の無上の榮譽を忝ふせるは偏に江湖愛顧諸君の賜なり爾來益々奮勵可仕候間何卒倍舊の御愛顧御高評の程伏而奉懇願候

登錄商標

卵の貴美石鹼

原品は勿論優等なる芳香劑を多量に配合したる故に使用后も永く香氣を保ち馥郁として愛すべき佳品なり

東京市日本橋區通油町七番地

發賣本舖 灰谷儀助

(電話浪花二百四十二)

何分にも御愛顧の程偏に奉願候

比類なき食パン諸種 評あり世

要大蹟成的學化理

ラム子水	酸度	七、二五	糖	有害金屬游離磷酸類
サイダ水	四〇%	六、一五九〇		
ソール水	一、五〇%	七、六〇四〇		
混合機へ十二シ水				
混合機へ廿四シ水				
時間入置シ水				

右ハ學士及博士ノ理化學的試驗成績ノ大要ナリ
 其ノ如何ニ最良ニシテ毫モ衛生ニ害ナキヲ
 試ミヨ他ニ偽物アリ、ナヤリ舍ノ四字ニ注意ス
 レ、忠實ト勤勉ハ弊舍ノ特色ナリ生命ナリ

最良なる諸沸騰水 他に比類なし

多少に限らず御用仰付被下度候

オールドの風味溫和且甘
 除き帯び最も衛生に
 適す

オールドの最良飛切の巻煙草なり
 オールドの北米合衆國ゲージヤ及北
 カロライナ産の精撰せる銘葉を配合
 して製造したる巻煙草なり
 オールドの徳用無類の巻煙草なり
 オールドの評判第一の品なり
 本入函定價僅よ金四錢

Wm. S. A. M. B. & Co.
 THE AMERICAN TOBACCO CO. SUCCESSORS
 ROCHESTER, N. Y.

Old Gold Cigarettes
 Sweet Mild
 J. P. Claubert & Co.

地番九目丁三町原田小南地築區橋京市京東
 (番八拾參百八千貳橋新番參拾貳百四千橋新話電)

舎りヤチ

於第五回國內勸業博覽會
三等賞牌受領

弊店儀各學校、各團體、各俱樂部、各共進會等より賞牌、徽章、帽章、金銀木盃等の製作を命ぜらるゝと年々幾方を以て數ふるの盛運を見たるは江湖諸彦が斯業は弊店ハ獨專業にして而かも熟練情巧迅速廉價誠實を以て旨こせるを賞せられ深く御眷顧を賜はりたるの結果に外ならず厚く感佩致す所に御座候就ては一層技術者を勵し品質を精選し益々御眷顧に相酬ひ可申候間倍舊の御愛顧伏して奉希望候

東京市麴町區飯田町三丁目十番地

日本帝國徽章商會

明治十年創立

(電話番町八五七番)

會主 鈴木梅吉

廣告

十九

陸海軍の原動力

若し夫れ言ふと得べくんば坭堦(即ちクルシブル)は陸軍の原動力にして煉炭(即ちブリケツト)は海軍の原動力なり、共に是れ國家的事業にして營利的事業にあらず、其の特効を知らんとするものは左の二箇所に就て之を聞け



東京芝區三田小山町

大日本坭堦製造所

東京々橋區月島西河岸

帝國煉炭株式會社

廣告

十六

九州の一隅に卓立し數千號を重て敗亡したる日刊「忠愛新聞」の成れの果

月刊新聞の覇王

主幹主筆木下吞歐



苦楚辛酸嘗め盡して地獄の底をも探検し畢りたる義旗再興の血と涙

▲毎月二回發行

▲本紙定價一部金五錢拾部金五拾錢一切前金を要す全國無郵稅

▲廣告料五號活字拾九字詰一行金五拾錢特別廣告同壹圓一頁金五拾圓半頁金參拾圓

▲郵稅代用一割増

▲爲替振込麻布局

東京市麻布區

永坂町四十二番地

發行所 **忠愛新聞社**

廣告

二十

44
225



77
223

041724-001-7

77-223

勸業功績録 第1, 2, 4編

木下 敬正

河野 左十郎 / 編

M36, 37

BDI-0259

